KENWOOD

オーディオビデオサラウンドレシーバー

VRS-7100

取扱説明書

お買い上げいただきましてありがとうございました。
ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、説明の通り正しくお使いください。
また、この取扱説明書は大切に保管してください。
本機は日本国内専用モデルですので、外国で使用することはできません。
使用者の安全のため、必ず『安全上のご注意』をお読みのうえでご使用ください。

株式会社 ケンウッド
KENWOOD CORPORATION

クイックスタート

サラウンドサウンドを最高の状態でお使いいただくため、ご使用前によくお読みください。
（本機とスピーカーシステムとの接続からスピーカーの設定、ソースの再生までの簡単な説明があります。）
"音を出してみましょう（DVDのビデオソフトを楽しむ）" →20→21

付属のリモコンについて

本機のリモコンは、従来のリモコンに比べて多くの操作モードを持っています。
リモコンを有効に使用するためにもこの取扱説明書をよくお読みになり、リモコンのしくみ、操作モードの切り換えかたなどをよくご理解のうえでご使用ください。
リモコンのしくみ、操作モードの切り換えかたを知らないまま操作すると、正しく操作できないことがあります。

B60-5461-10 01 (MA) (J) AP 0312

安全上のご注意

⚠ このページは、感電や火災からあなたを守るため、ご使用の前に必ずお読みください。

製品を安全にご使用いただくため、「安全上のご注意」をご使用の前によくお読みください。

絵表示について

この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使い頂き、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止する為に、いろいろな絵表示をしています。
その表示と意味は次のようになっています。内容を良く理解してから、本文をお読みください。

警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△ 記号は、注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠ 記号は、禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

● 記号は、行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

お客様または第三者が、この製品の誤使用・故障・その他の不具合およびこの製品の使用によって受けられた損害につきましては、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

この製品の故障・誤動作・不具合などによって発生した次に掲げる損害などの付随的損害の補償につきましては、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- お客様または第三者がテープ・ディスクなどへ記録された内容の損害
- 録音・再生などお客様または第三者が製品利用の機会を逸したことによる損害

この「安全上のご注意」には、当社のオーディオ機器全般についての内容を記載しています。
（説明項目の中には、操作説明部と重複する内容もあります）

⚠警告

交流100ボルトの電圧で使用する

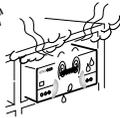
この機器は、交流100ボルト専用です。指定の電源電圧以外で使用すると、火災・感電の原因となります。

船舶などの直流（DC）電源には接続しない

火災の原因となります。

通風孔をふさがない

- あおむけや横倒し、逆さまにして使用しない。
- 布を掛けたり、じゅうたん、布団の上に置いて使用しない。
- 風通しの悪い狭い所で使用しない。

通風孔がふさがると、内部に熱がこもり、火災の原因となります。

風呂、シャワー室では使用しない

風呂、シャワー室など湿度の高いところや、水はねのある場所では使用しない。火災・感電の原因となります。

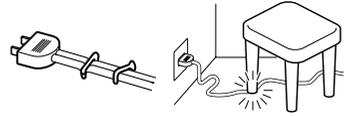
水をかけたりぬらしたりしない

火災・感電の原因となります。
雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

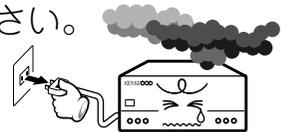
ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となります。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したり、ステープルや釘などで固定したりしない。
電源コードの上に重いものをのせたり、コードを本機の下敷きにしたりしない。
コードを敷物などで覆ってしまうと、気づかずに重いものをのせてしまうことがあります。
コードが傷つき、火災・感電の原因となります。

電源コードが傷ついたら（芯線の露出、断線など）販売店または当社サービス窓口に交換をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

異常が起きた場合は電源プラグを抜く

内部に水や異物が入ったり、煙が出たり、変な臭いや音がしたりした場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
煙や、異臭、異音が消えたのを確かめてから修理をご依頼ください。

雷が鳴り始めたらアンテナ線や電源プラグには触れない

感電の原因となります。

⚠警告

電源プラグを定期的に清掃する

電源プラグにほこりなどが付着していると、湿気等により絶縁が悪くなり、火災・感電の原因となります。
電源プラグをコンセントから抜いて、乾いた布で取り除いてください。

きれいにしましょう

機器の上に花びんやコップなど水の入った容器を置かない

水がこぼれて中に入ると、火災・感電の原因となります。

機器の内部に水や異物を入れない

機器の通風孔、開口部から内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしない。
火災・感電の原因となります。

機器の上にろうそくやランプなど火のついた物を置かない

本機のカバーやパネルにはプラスチックが使われており、燃え移ると火災の原因となります。

落下した機器は電源プラグを抜く

機器を落としたり、カバーやケースがこわれたりした場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、点検、修理をご依頼ください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

電池は乳幼児の手の届かないところに置く

電池をあやまって飲み込むおそれがあります。ボタン電池など小型の電池は特にご注意ください。
万一、お子さまが飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

乾電池は充電しない

電池の破裂、液もれにより、火災・けがの原因となります。

機器のケースを開けたり改造したりしない

内部には電圧の高い部分があり、火災・感電の原因となります。
点検、修理は販売店または当社サービス窓口にご依頼ください。

⚠注意

カセットテープ、ディスク挿入口に手を入れない

手がはさまれて、けがの原因となることがあります。
特にお子様にはご注意ください。

レーザー光源をのぞき込まない

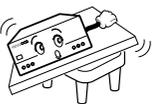
レーザー光が目に当たると、視力障害を起こすことがあります。

⚠注意

電源コードを熱器具に近づけない

電源コードを熱器具(ストーブ、アイロンなど)に近づけない。
コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かない。
落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。

湿気やほこりの多い場所に置かない

油煙や湯気の当たる調理台や加湿器のそば、湿気やほこりの多い場所に置かない。
火災・感電の原因となることがあります。

温度の高い場所に置かない

窓を閉めきった自動車の中や直射日光があたる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しない。
本体や部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。

アンテナ工事は販売店に相談する

工事には、技術と経験が必要です。アンテナは送配電線から離れた場所に設置してください。
アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと発熱したりほこりが付着したりして、火災の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると、感電の原因となることがあります。
電源プラグを根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントの場合には、販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。

長期間使用しないときは電源プラグを抜く

旅行などで長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。
火災の原因となることがあります。

移動させるときは電源プラグを抜く

移動させるときは、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、アンテナ線、接続コードを外す。
コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。

お手入れの際は電源プラグを抜く

お手入れの際は電源プラグをコンセントから抜く。
感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らない

コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

⚠ 注意

機器の接続は取扱説明書に従う

関連機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続する。また、接続は指定のコードを使用する。
あやまった接続、指定以外のコードの使用、コードの延長をすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きな物を置かない

バランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因となることがあります。

機器に乗らない

機器に乗ったり、ぶら下がったりしない。特にお子様にはご注意ください。
倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。

はじめから音量を上げすぎない

突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。特にヘッドホンをご使用になるときは注意してください。

耳を刺激するような大きな音で長時間続けて聞かない

聴力に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンをご使用になるときは注意してください。

長時間音が歪んだ状態で使わない

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

ひび割れディスクは使わない

ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは使用しない。
ディスクは機器内で高速回転しますので、飛び散って、けがの原因となることがあります。

電池の取り扱いに注意する

次のことを、必ず守ってください。

- 極性表示(プラス"+"とマイナス"-"の向き)に注意し、表示どおりに入れる。
- 指定の電池を使用する。
- 使い切ったときや、長期間使用しないときは、取り出しておく。
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。
- 違う種類の電池を混ぜて使用しない。
- 電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れたりしない。

電池は誤った使い方をすると、破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を破損する原因となることがあります。

電池を入れたままにしておくと、過放電により液がもれ、けがややけどの原因となることがあります。

液がもれた場合は、点検、修理をご依頼ください。万一、もれた液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

⚠ 定期的に内部の点検、清掃をする

3年に1度程度を目安に、機器内部の点検、清掃をお勧めします。販売店、または最寄りのケンウッドサービス窓口に費用を含めご相談ください。
内部にほこりのたまったまま長い間掃除をしないと、火災や故障の原因となることがあります。

はじめに

取扱説明書の使用方法

本書は、準備編、操作編、リモコン操作編、その他、の４つの章に分かれています。

準備編
お手持ちのオーディオおよびビデオ機器との接続のしかたや、サラウンド設定などの準備のしかたを説明しています。
またお手持ちのオーディオやビデオ機器によっては、接続がとても複雑になることがありますので、取扱説明書をよくお読みのうえ、接続してください。

操作編
本機で使用できる各種機能の操作方法を説明しています。

リモコン操作編
他の機種をリモコンで操作するための方法を説明しています。各種の設定、登録を済ませておくと、本機とお手持ちのAV機器（テレビやビデオ、CDプレーヤー等）が、本機に付属のリモコンだけで操作できるようになります。

その他
「故障かな？と思ったら」、「定格」などを示してあります。

セットのお手入れ
前面パネル、ケースなどが汚れたときは、柔らかい布でからぶきします。シンナー、ベンジン、アルコールなどは変色の原因になることがありますので、ご使用にならないでください。

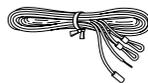
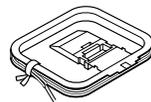
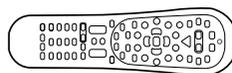
接点復活剤について
接点復活剤は、故障の原因となることがありますので、ご使用にならないでください。特にオイルを含んだ接点復活剤は、プラスチック部品を変形させることがあります。

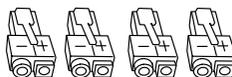
ステレオ音のエチケット

楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。近くにいる人や、隣り近所への配慮を十分いたしましょう。特に密集した場所でご使用になる場合は、音量を控え目にするなどして、お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

付属品

次の付属品がそろっていることを確認してください。

FM 室内アンテナ
（1本）

AM ループアンテナ
（1個）

リモートコントロールユニット
（1個）（RC-R0730）

リモコン用単3乾電池
（2本）

スピーカーコード用コネクタ
（4個）

本機の特長

多彩なホームシアター機能　→33 ～→35

本機には､ご家庭で映像ソフトやオーディオソースを十分に楽しんでいただくために多彩なリッスンモードを用意しています。
お手持ちの機器や､再生する映像ソフトに合わせてモードを選び､お楽しみください。

- Dolby Digital EX
- Dolby PRO LOGIC IIx、Dolby PRO LOGIC II
- Dolby Digital
- DTS-ES
- DTS NEO:6
- DTS 96/24
- DTS
- MPEG2 AAC
- DSP モード
- Dolby Virtual Speaker
- Dolby Headphone

ゲームモード機能　→25

本体前面の**GAME**端子にゲーム機器を接続すると､自動的にインプットセレクターが"**GAME**"に切り換わり、ゲームを楽しむのに最適な音場に設定されます。
ゲームをより便利にお楽しみいただけます。

デュアルソース機能　→28

スピーカーで音声を楽しむのと同時に､ヘッドホンで**GAME**端子または､**FRONT AUX** 端子に接続した別のソース（音声＋映像）を視聴することができます。２つのソースを複数人でお楽しみいただけます。

ACTIVE EQ　→29

ACTIVE EQ モードは再生音をより迫力のあるものにします。ACTIVE EQモードによりどのような条件においてもよりダイナミックで高品質の音が作り出せます。ドルビーデジタルそして DTS 再生において ACTIVE EQ モードにすることにより、より印象的な音響効果を楽しむことができます。

プリセットリモコン　→41

リモコンで働くほとんどのオーディオ､ビデオ機器を本機のリモコンで操作できます。接続した機器を簡単な手順で登録することができます。

目次

⚠ このマークのついた項目は、安全確保のために必ずお読みください。

各部のなまえと働き

メインユニット

❶ **ON/STANDBY ⏻ キー** ➞ 22
電源のオン / スタンバイを切り換えます。
STANDBY 表示
電源がスタンバイ状態のときに点灯します。

❷ **DUAL SOURCE VOLUME ▲ / ▼ キー** ➞ 28
DUAL SOURCE モードの音量を調節します。
DUAL SOURCE INPUT キー ➞ 28
DUAL SOURCE モードの入力を切り換えます。
DUAL SOURCE ON/OFF キー ➞ 28
DUAL SOURCE モードの ON/OFF を切り換えます。

❸ **BAND キー** ➞ 31
受信バンドを切り換えます。

❹ **AUTO/MONO キー** ➞ 31
ラジオ放送の自動受信とマニュアル受信を選ぶときに使います。

❺ **Dolby D 表示** ➞ 36
ドルビーデジタル信号を再生しているときに点灯します。
DTS 表示 ➞ 36
DTS信号を再生しているときに点灯します。
AAC 表示 ➞ 37
AAC信号を再生しているときに点灯します。
DUAL SRC 表示 ➞ 28
DUAL SOURCE モードを ON にしているときに点灯します。

❻ **ジョイスティック**
MULTI CONTROL △ / ▽ ➞ 21 ➞ 31
いろいろな設定に使います。ラジオ放送の選局に使います。
MULTI CONTROL ◁ / ▷ ➞ 21 ➞ 32
いろいろな設定に使います。記憶させた放送局の選択に使います。
ENTER ➞ 21 ➞ 31
いろいろな設定に使います。放送局を記憶させるときに使います。

❼ **MULTI CH 表示** ➞ 36
マルチチャンネル再生をしているときに点灯します。

❽ **ACTIVE EQ キー** ➞ 29
ACTIVE EQの設定をするときに使います。

❾ **VOLUME CONTROL つまみ** ➞ 27
本機の音量を調節します。

❿ **INPUT SELECTOR キー** ➞ 27
入力ソースを選択します。

⓫ **SETUP キー** ➞ 21 ➞ 30
スピーカーの設定などをするときに使います。
REC MODE の選択に使います。

⓬ **LISTEN MODE キー** ➞ 36
リッスンモードを選ぶときに使います。

⓭ **GAME端子** ➞ 18 ➞ 25 ➞ 28

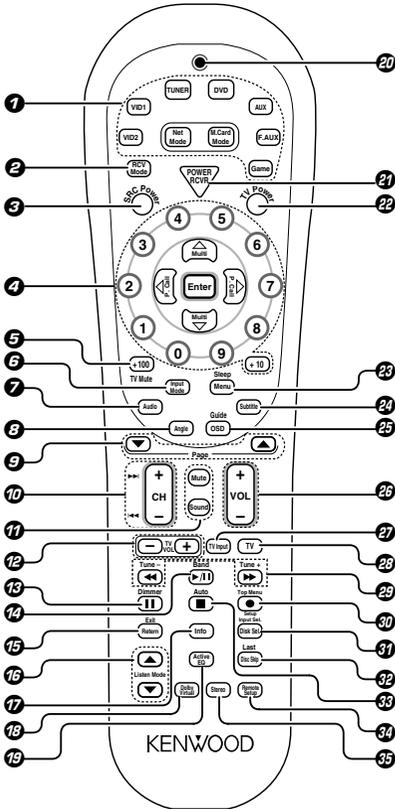
⓮ **FRONT AUX 端子** ➞ 18 ➞ 28

⓯ **PHONES 端子** ➞ 28
ヘッドホンで聴くときに使います。

スタンバイ状態について

本機の **STANDBY** 表示が点灯中は、メモリー保護のため、微弱な通電を行っています。これをスタンバイ状態といいます。
このとき、リモコンで本機をオンにできます。

リモコン

メーカーセットアップコードを正しく設定しておくと、ケンウッドの機器だけでなく、他社製の機器もリモコンで操作できます。 →43

本体とリモコンで機能が同じでも、キーまたはつまみの名称が異なるものがあります。本取扱説明書の説明文中では、本体とリモコンで名称が異なる場合は、リモコンキーの名称をかっこ内に表記します。

❶ **インプットセレクターキー(TUNER、DVD、VID 1、VID 2、AUX、F. AUX、Game)** →27
入力ソースを選択します。
ソースキー(TUNER、DVD、VID 1、VID 2、AUX、F. AUX、Game) →41
インプットセレクターを切り換えずに、登録された機器を操作するには、各キーを3秒以上押します。
Net Mode キー、M. Card Mode キー
使用しません。

❷ **RCV(レシーバー)Mode キー** →22 →38
リモコンを、レシーバー操作モードに切り換えます。

❸ **SRC(ソース)Power キー**
リモコンに登録した他の機器の電源のオン/オフを切り換えます。

❹ **数字キー** →32 →41
プリセットした放送局の選択に使います。
他の機器の操作に使います。
Multi △/▽(マルチコントロール)キー →22 →31
いろいろな設定やラジオ放送の選局に使います。他の機器の操作に使います。
P.Call ◁/▷キー →22 →32
いろいろな設定に使います。
記憶させた放送局の選択に使います。
Enter キー →22
いろいろな設定に使います。
他の機器の操作に使います。

❺ **+100 キー**
MDレコーダーを操作するときは、曲の選択に使います。
TV Mute キー
テレビの音を一時的に消すときに使います。

❻ **Input Mode キー** →12
インプットモードの設定に使います。

❼ **Audio キー**
DVD の操作に使います。

❽ **Angle キー**
DVD の操作に使います。

❾ **Page ▲/▼キー**
DVD プレーヤーの操作に使います。

❿ **CH +/− キー**
チャンネルを選ぶときに使います。
▶▶|/|◀◀ キー
CD プレーヤー、MD レコーダーまたは DVD プレーヤーを操作するときに、スキップキーとして使います。

⓫ **Mute キー** →29
音を一時的に消すときに使います。
Sound キー →26 →28 →38
音質や音場を調節したいときに使います。

⓬ **TV VOL +/− キー**
テレビの音量を調節するときに使います。

⓭ **II キー**
他の機器の操作に使います。
Dimmer キー →40
ディスプレイの明るさを調節します。

⓮ **▶/II キー**
CDプレーヤーを操作するときは、再生/一時停止キーとして使います。DVDプレーヤー、MDレコーダーまたはビデオデッキを操作するときは、再生キーとして使います。
Band キー →31
放送バンドを切り換えます。

⓯ **Return キー**
DVD の操作に使います。
Exit キー
他の機器の操作に使います。

⓰ **Listen Mode ▲/▼キー** →36
リッスンモードを選ぶときに使います。

⓱ **Info キー**
他の機器の操作に使います。

⓲ **Dolby Virtual キー** →35
ドルビーバーチャルモードの設定に使います。

⓳ **Active EQキー** →29
ACTIVE EQ の設定をするときに使います。

⓴ **LED表示**
リモコンから信号が送信されたときに、点滅します。

㉑ **POWER RCVR(レシーバー)キー** →22
本機の電源のオン/スタンバイを切り換えます。

㉒ **TV Power キー**
テレビの電源のオン / オフを切り換えます。

㉓ **Menu キー**
他の機器の操作に使います。
Sleep キー →40
おやすみタイマーの設定に使います。

㉔ **Subtitle キー**
DVD の操作に使います。

㉕ **OSD(オンスクリーン)キー**
DVD の操作に使います。
Guide キー
他の機器の操作に使います。

㉖ **VOL +/−キー** →27
本機の音量を調節します。

㉗ **TV Input キー**
テレビの操作をするときに使います。

㉘ **TV キー**
テレビを操作するときに使います。

㉙ **◀◀ / ▶▶キー**
CD プレーヤー、MD レコーダー、DVD プレーヤーまたはビデオデッキを操作するときに、サーチキーなどとして使います。
Tune +/− キー →31
ラジオ放送の選局に使います。

㉚ **● キー**
MDレコーダーまたはビデオデッキを操作するときは、録音キーとして使います。ビデオデッキを操作するときは、続けて 2 回押します。
Top Menu キー
DVD の操作に使います。
Setup キー →22
スピーカーの設定などをするときに使います。

㉛ **Disc Sel. キー**
他の機器の操作に使います。
Input Sel. キー
他の機器の操作に使います。

㉜ **Disc Skip キー**
マルチCDプレーヤーを接続したときに、ディスクスキップキーとして使います。
Last キー
他の機器の操作に使います。

㉝ **■ キー**
CD プレーヤー、DVD プレーヤー、MD プレーヤーまたはビデオデッキを操作するときは、停止キーとして使います。
Auto キー →31
ラジオ放送の自動受信とマニュアル受信を選ぶときに使います。

㉞ **Remote Setup キー** →41 →42
他の機器のリモコンの操作を記憶させるときに使います。

㉟ **Stereo キー** →37
リッスンモードを一時的にステレオに切り換えるときに使います。

⚠ 注意

接続をするときは、電源コードのプラグをコンセントに差し込まないでください。また、接続を変更するときも、電源コードのプラグをコンセントから抜いてから行ってください。
機器の接続は 13 ページ〜 19 ページをご覧ください。

関連システム機器を接続するときは、関連機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

マイコンの誤動作について

正しく接続したのに操作ができなかったり、ディスプレイが誤った表示をする場合は、"**故障かな？と思ったら**"を参照してマイコンをリセットしてください。 ➞50

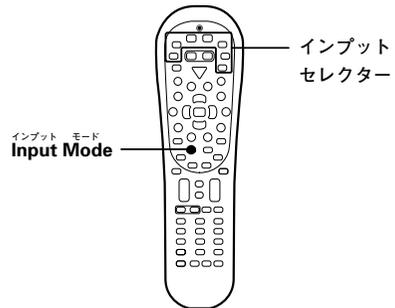
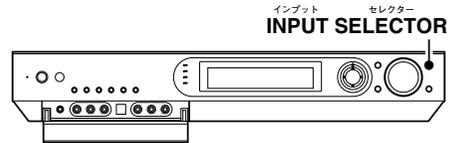
ご注意

1. 機器間の接続を行なうときは、必ず各機器の電源を切ってから行なってください。
2. すべての接続コードは確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと、音が出なくなったり、雑音が発生することがあります。
3. 接続コードを抜き差しする場合は、必ず電源コードを電源コンセントから抜いてください。
4. 屋外アンテナの設置は危険を伴いますので、販売店、または専門の技術者にご依頼ください。
5. 近くに磁石など磁気を発生するものが置かれている場合には、スピーカーとの相互作用により、テレビに色ムラが発生することがありますので、設置にご注意ください。

アナログ音声接続について

オーディオ機器はオーディオピンコードで接続します。その場合、音声はアナログステレオ信号で入出力されます。オーディオピンコードは赤い端子（R 側に接続）と白い端子（L 側に接続）のペアになっています。これらのコードは別途ご用意ください。

インプットモードの設定

DVD、**VIDEO 1**、**VIDEO 2**、**AUX** または **GAME** の入力は、それぞれデジタル音声入力とアナログ音声入力の端子を持っています。
工場出荷時におけるDVD、VIDEO 1、VIDEO 2、AUXまたはGAMEのオーディオ信号インプットモードはフルオートモードに設定してあります。
接続を終了し、本機の電源を入れた後に以下の操作でインプットモードを選んでください。

❶ **INPUT SELECTOR キー（またはインプットセレクターキー）でDVD、VIDEO 1、VIDEO 2、AUXまたはGAMEを選ぶ。**

❷ **Input Modeキーを押す。**
押すたびに切り換わります。

① "**F-AUTO**"：オートディテクトモード
（"**AUTO DETECT**" 表示点灯）
② "**D-MANUAL**"：デジタル入力固定
（"**DIGITAL**" 表示点灯）
③ "**ANALOG**"：アナログ入力固定 *
（"**AUTO DETECT**"、"**DIGITAL**" 表示消灯）

* DTS 再生のときは、選択できません。

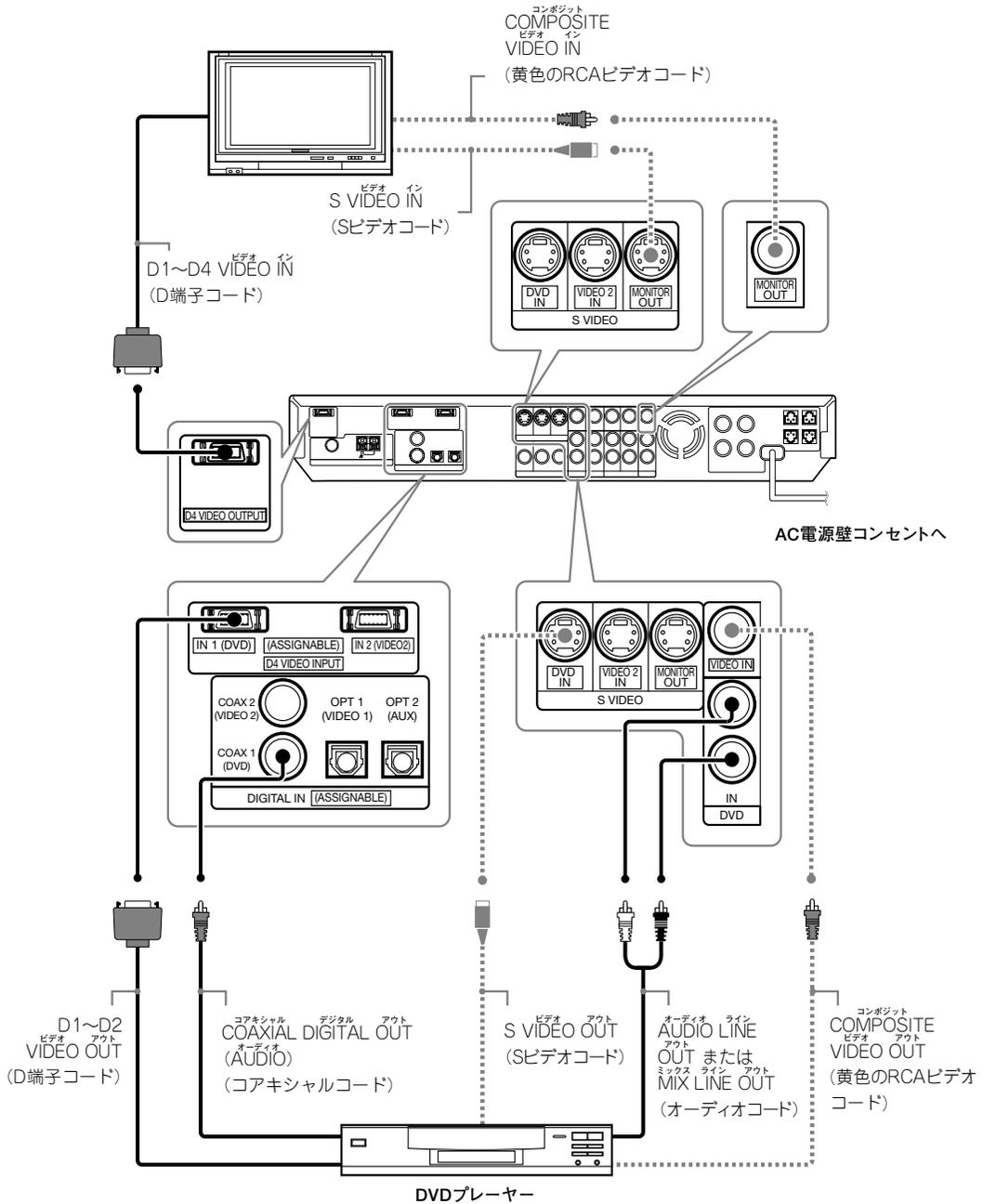
オートディテクトモード ：
FULL AUTO モード（ディスプレイ内の"**AUTO DETECT**"表示点灯）ではデジタル入力信号を自動的に検出し、再生します。また、デジタルソース再生時には入力信号の種類(ドルビーデジタル、DTS、AAC、PCMなど）とスピーカーの設定に合わせてリッスンモードを自動的に選びます。 ➞36
デジタル信号が検出された場合は"**DIGITAL**"表示が点灯します。デジタル信号が検出されないときには"**DIGITAL**"表示が消灯します。

デジタル入力固定 ：
デコードの状態（ドルビーデジタル、DTS、PCM 等）を現在のリッスンモードに固定したいときに選びます。
DIGITAL MANUALモードに設定した場合、リッスンモードによっては、設定したリッスンモードが自動的に変更されることがあります。 ➞36

アナログ入力固定 ：
ビデオテープなどに記録されているアナログ音声信号を再生したいときに選びます。

Input Modeキーをすばやく押すと、音声が聞こえなくなることがあります。その場合再度**Input Mode**キーを押し直してください。

DVD プレーヤーの接続

デジタル機器を接続したときは "**インプットモードの設定**"、"**背面端子の割り付けを変更する**" をご覧ください。 →12 →26

- ドルビーデジタル、DTSなどマルチチャンネル信号を再生する場合は、デジタル音声の接続が必要です。
- ここで接続したDVDプレーヤーを再生するときは、インプットセレクター"DVD"を選んでください。 →27

ビデオ機器、オーディオ機器の接続

オーディオ機器など

AUDIO LINE OUT
（オーディオコード）

モニターテレビ

VIDEO IN
（黄色のRCAビデオコード）

MONITOR OUT

IN AUX L R

VIDEO IN　VIDEO OUT　VIDEO IN
PLAY IN　REC OUT　PLAY IN
VIDEO 2　VIDEO 1

VIDEO OUT
（黄色のRCA ビデオ コード）

AUDIO LINE IN
（オーディオコード）

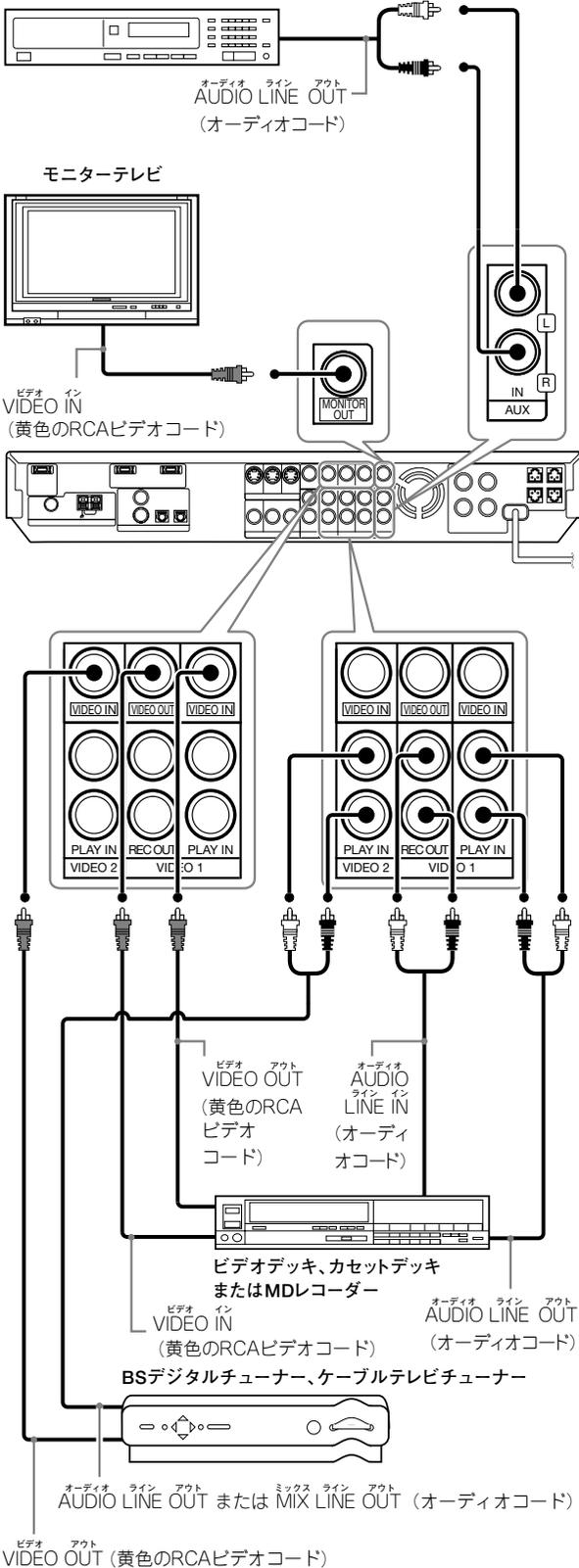
ビデオデッキ、カセットデッキまたはMDレコーダー

VIDEO IN
（黄色のRCAビデオコード）

AUDIO LINE OUT
（オーディオコード）

BSデジタルチューナー、ケーブルテレビチューナー

AUDIO LINE OUT または MIX LINE OUT（オーディオコード）

VIDEO OUT（黄色のRCAビデオコード）

D端子接続について

本機のD端子（D1～D4対応）を使用して、D端子付きの機器を接続した場合はS VIDEO端子を使用して接続した場合よりも高品質の画像が得られます。

D端子付きの機器を接続したときは"**背面端子の割り付けを変更する**"をご覧ください。 →26

D端子付きの機器をD端子コードで接続したときは、必ずモニターテレビへの接続もD端子コードで接続してください。

S VIDEO ビデオ接続について

S VIDEO端子付きの機器の場合は、S VIDEO接続コードを用いることで、より質の高い映像が楽しめます。

ビデオデッキなどを S VIDEO 接続コードで接続したときは必ずモニターテレビへの接続も S VIDEO 接続コードで接続してください。

DVD IN　VIDEO 2 IN　MONITOR OUT
S VIDEO

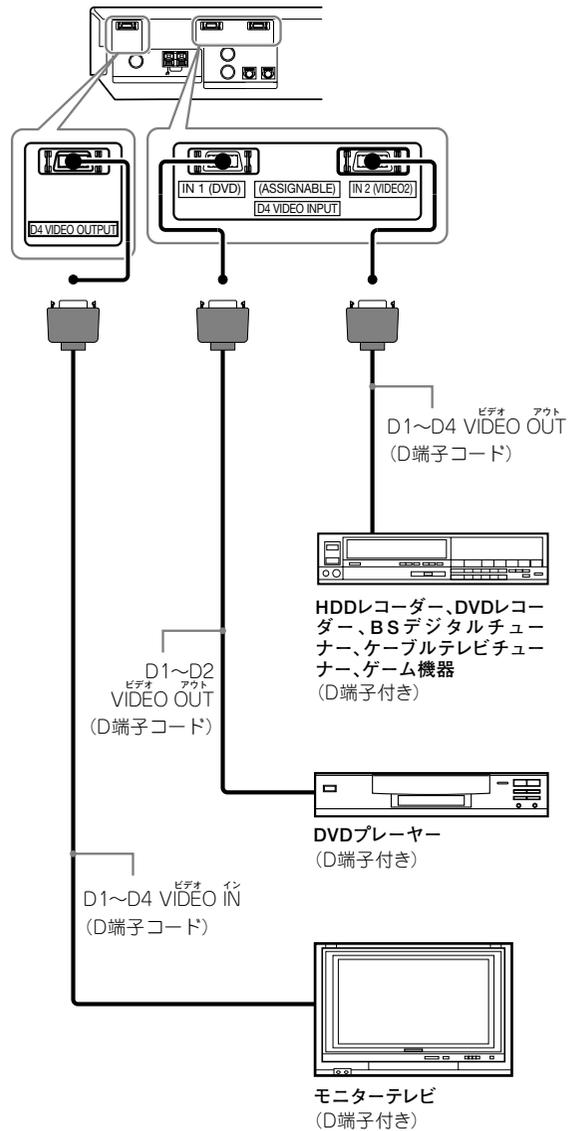
S VIDEO IN
(S VIDEOコード)

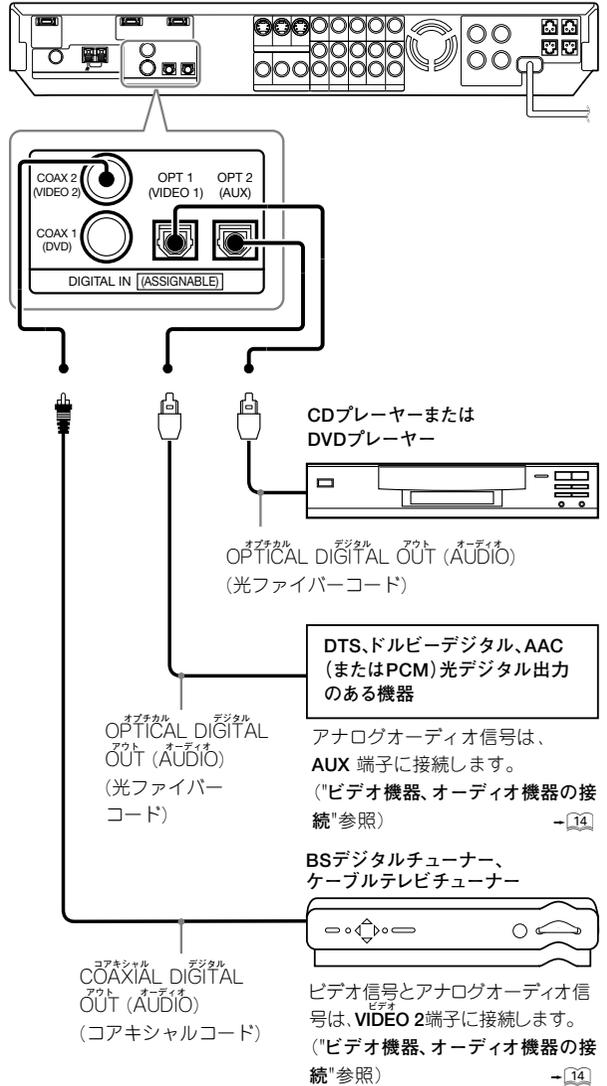
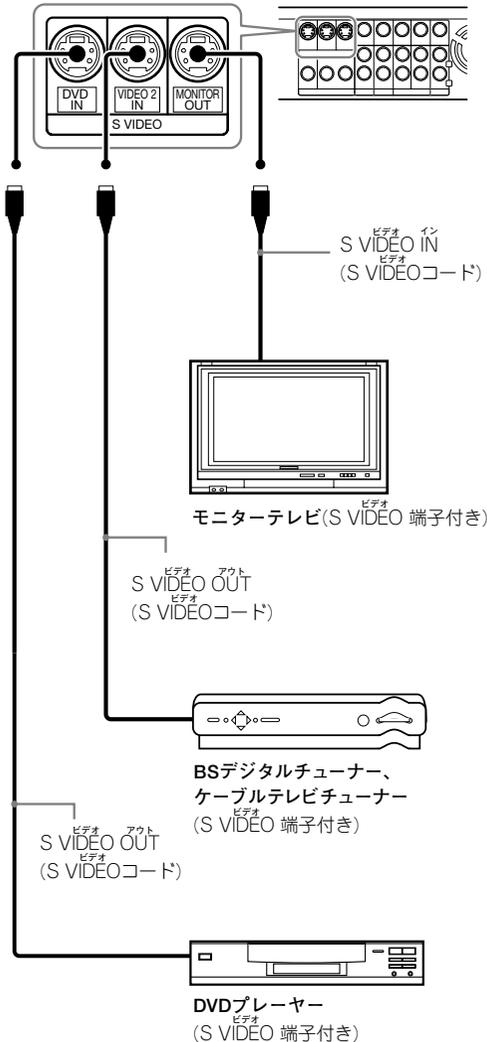
モニターテレビ(S VIDEO 端子付き)

S VIDEO OUT
(S VIDEOコード)

BSデジタルチューナー、
ケーブルテレビチューナー
(S VIDEO 端子付き)

S VIDEO OUT
(S VIDEOコード)

DVDプレーヤー
(S VIDEO 端子付き)

デジタル機器の接続

デジタル入力端子はドルビーデジタル、DTS、AACまたはPCM信号で使用できます。ドルビーデジタル、DTS、AACまたはPCM(CDなど)のデジタル信号を出力できる機器を接続します。
デジタル機器を接続したときは "**インプットモードの設定**"、"**背面端子の割り付けを変更する**" をご覧ください。 →12 →26

DTS に関する注意事項

DTS でエンコードされたソフトウエアを再生すると、CD または DVD プレーヤーのアナログステレオ出力から雑音が出ることがあります。CD または DVD プレーヤーのデジタル出力を本機に接続してください。

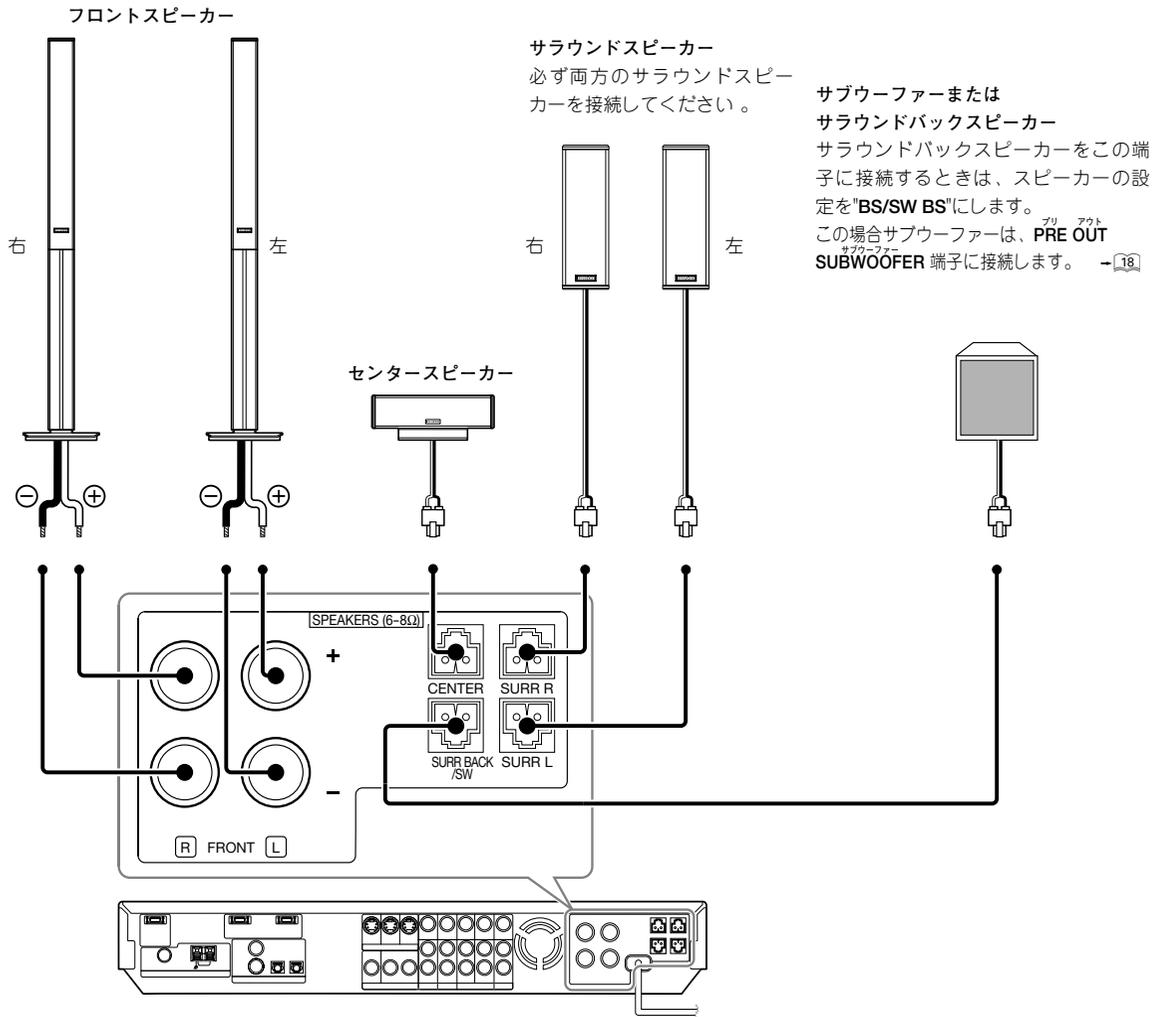
スピーカーの接続

⚠ 注意

スピーカーコードを接続をするときは､必ず電源コードのプラグをコンセントから抜いてから行ってください。
スピーカーコード先端の導線がバラけていると、ショートする危険があります。充分にねじり合わせてから導線を接続してください。

各スピーカーが正しく接続されているか確かめるには､テストトーンを出力し各スピーカーチャンネルの音が出力しているかどうかで判断することができます。詳しくは " スピーカ設定（手順 6 " 各スピーカーの音量レベルを調節する。"）" をご覧ください。 →24

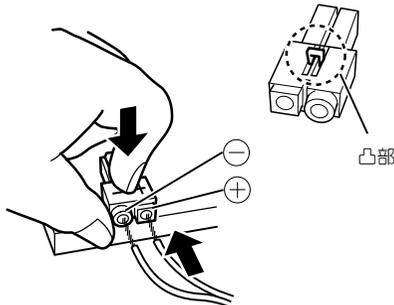
保護回路について

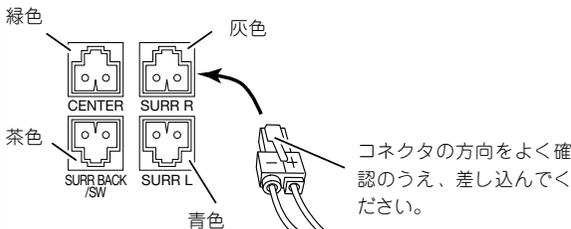
本機は､大出力再生時及び極端な温度上昇などにより保護回路が作動することがあります。
保護回路が作動すると、出力が遮断されSTANDBY（スタンバイ）インジケーターが点滅します。
このような場合は､電源を入れなおし､出力ボリュームを下げてご使用ください。

スピーカーターミナルの接続

スピーカーコードが短いときなど市販のスピーカーコード［AWG24～18（導体部の直径0.511mm～1.024mm）規格］に替えることもできます。市販のスピーカーコードの両端は、あらかじめ約1cm程度ビニール皮膜をむき、導線がバラけないようにねじり合わせてください。

スピーカーコード用コネクタの取り付け：
本機背面の端子の色にコネクタの色を合わせて、スピーカーコードを取り付けます。

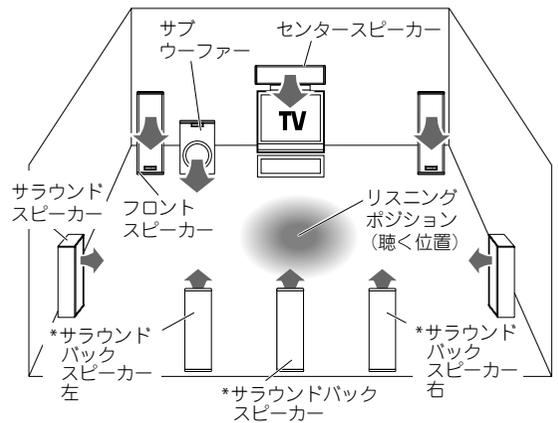
接続するスピーカー	コネクタ	接続する端子
センタースピーカー	緑色	CENTER
サラウンドスピーカー（右）	灰色	SURR R
サラウンドスピーカー（左）	青色	SURR L
サラウンドバックスピーカー またはサブウーファー	茶色	SURR BACK/SW

コネクタの凸部(白色)を固い机などに押し付けながら、スピーカーコードを入れます。

- スピーカーコードを入れたあと、コネクタを持って軽くスピーカーコードを引いて抜けないことを確認してください。

端子の色を合わせ、真直ぐにカチッと音がするまで確実に本体のコネクタ受部に差し込む。

- スピーカーコードの＋と－は絶対にショートさせないでください。
- 左右を逆にしたり、極性を間違えて接続しますと、楽器などの位置がはっきりせず、不自然な音になります。正しく接続してください。

スピーカーインピーダンス

フロントスピーカー .... 6～8 Ω
センタースピーカー .... 6～8 Ω
サラウンドスピーカー .... 6～8 Ω
サラウンドバックスピーカー .... 6～8 Ω
サブウーファー .... 6～8 Ω

サラウンドスピーカーの設置のしかた

＊ 7.1チャンネルサラウンドサウンドシステムの場合ではサラウンドバックスピーカー（サラウンドバックスピーカーL／R）を2本、6.1チャンネルサラウンドサウンドシステムの場合は1本のサラウンドバックスピーカーを接続します。

フロントスピーカー：左右のスピーカーを、テレビをはさんで左右対称に置きます。お聴きになる位置に向けて傾けていただくと効果的です。

センタースピーカー：センタースピーカーを、左右のスピーカーの中央に置きます。スピーカー部とお聴きになる位置が向かい合うようにしてください。

サラウンドスピーカー：サラウンドスピーカーを、お聴きになる位置の真横か少し後ろの、できるだけ高い位置に置きます。お聴きになる位置に向けて傾けていただくと効果的です。

サブウーファー：サブウーファーは一般的に部屋の前方中央のフロントスピーカー付近に置きます。（他のスピーカーとくらべ指向性があまり強くありませんので、お部屋のレイアウトに合わせて重低音がよく聞こえる位置に設置してください。）

サラウンドバック：サラウンドバックスピーカーをお聴きになる位置の真後ろに置きます。左右のサラウンドスピーカーと同じ高さにしてください。

- すべてのスピーカーを設置すると理想的なサラウンド再生ができますが、センタースピーカーまたはサブウーファーをお持ちでない場合は、それらの信号を各スピーカーに割り振って、お手持ちのスピーカーで最適な再生を行います。 →22

PRE OUT の接続

本機には PRE OUT 端子が付いています。
PRE OUT端子を使った接続には、別途パワーアンプが必要となります。また、サラウンドバックスピーカーを接続するときは、左右2本のスピーカーを接続してください。

R L
SUB WOOFER SURROUND BACK
PRE OUT

例：
- サラウンドバックスピーカーを2本使いたい。
- SURR BACK/ SW 端子にサブウーファーを接続しました。

サラウンドバックスピーカー
右 左
パワーアンプ

例：
- SURR BACK/ SW 端子にサラウンドバックスピーカーを接続しました。

サブウーファー
パワーアンプ
アンプ内蔵サブウーファー

- スピーカーコードをPRE OUT端子に接続しても、スピーカーからは音は出ません。

本体前面の GAME 端子／FRONT AUX 端子への接続

ポータブルビデオカメラ機器など通常は本機に接続してご使用にならない機器は、本体の前面にある GAME 端子／ FRONT AUX 端子に接続します。ポータブルビデオカメラからダビングする時などに使用すると便利です。

- GAME端子のDIGITAL IN（OPTICAL）端子を使い、デジタル音声接続ができます。本機でゲーム機器を使用するときの、便利な設定もあります。 →25

アンテナの接続

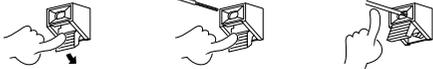
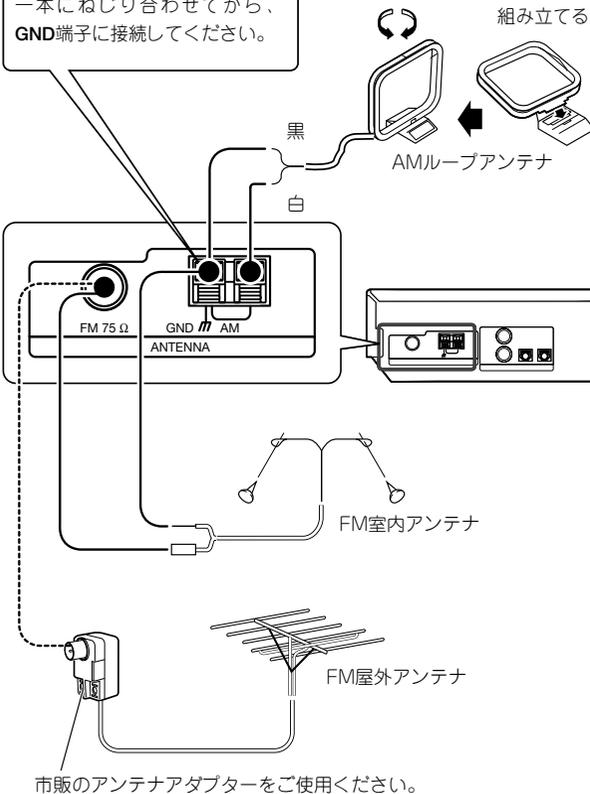
⚠ 注意　屋外アンテナ設置上のご注意

アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。アンテナは送配電線から離れた場所に設置してください。
アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。

ＡＭループアンテナの接続

付属のアンテナは室内用です。
本機、ＴＶ、スピーカーコード、電源コードからなるべく離れたところで受信状態の一番よい方向に向けます。

AM アンテナ端子の接続のしかた

❶ レバーを押す　❷ コードを差し込む　❸ レバーを戻す

ＦＭ室内アンテナの接続

付属のアンテナは室内用で、一時的に使用するものです。安定した受信のためには、屋外アンテナの使用をお勧めします。屋外アンテナを接続する場合は、室内用アンテナは取り外してください。

ＦＭ屋外アンテナの接続

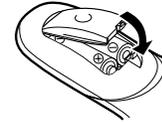
75 Ω 同軸ケーブルを使って屋内へ引き込み、**FM75 Ω** 端子に接続します。

リモコンの準備

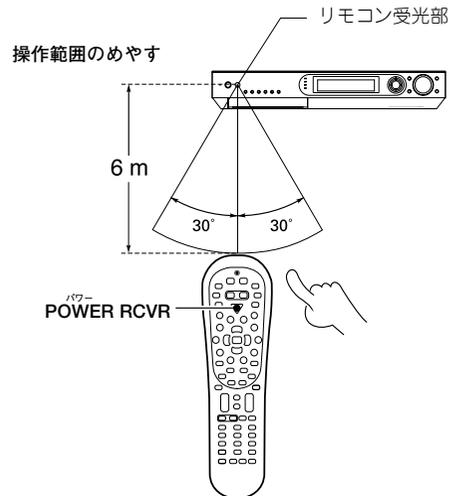
電池を入れる

❶ ふたを開ける

❷ 電池を入れる

❸ ふたを閉める

● 単3乾電池（R6）2本を極性マークにしたがって入れる。

操作のしかた

本機がスタンバイ状態のときに、リモコンの**POWER RCVR**（パワー）キーを押すと、電源がオンになります。電源がオンになったら、操作したいキーを押します。

- リモコンの各操作キーを押してから次のキーを押すときは、約1秒以上の間隔をあけて確実に押してください。

ご注意

1. 付属の乾電池は、動作チェック用のため、寿命が短いことがあります。ご了承ください。
2. 操作できる距離が短くなったら、すべて新しい電池と交換してください。リモコンは電池を取り換えている間でも、セットアップコードのメモリーを保持するように設計されています。
3. リモコン受光部に直射日光や高周波点灯（インバーター方式など）の蛍光灯の光が当たると、正しく動作しないことがあります。このような場合、誤動作を避けるために設置場所を変えてください。

STEP 1 スピーカー、テレビ、DVD を接続します

詳細は、"**接続のしかた**"をご覧ください。 →12 〜 →18

⚠ 注意

スピーカーコードを接続をするときは、必ず電源コードのプラグをコンセントから抜いてから行ってください。
スピーカーコード先端の導線がバラけていると、ショートする危険があります。充分にねじり合わせてから導線を接続してください。

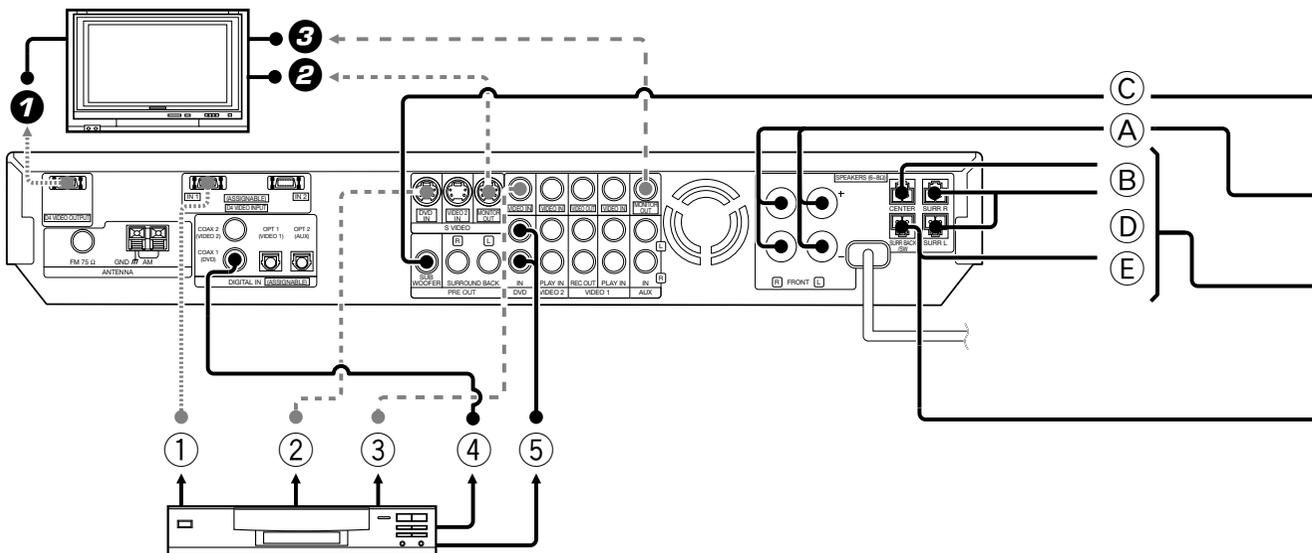
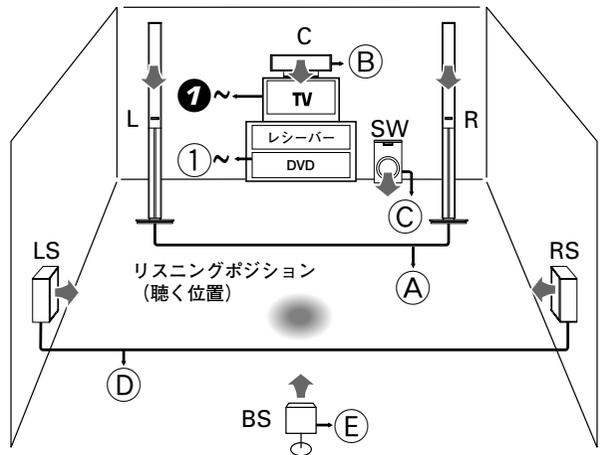
スピーカーとの接続

Ⓐ	フロントスピーカー（L、R）
Ⓑ	センタースピーカー
Ⓒ	サブウーファー
Ⓓ	サラウンドスピーカー（L、R）
Ⓔ	サラウンドバックスピーカー

- サラウンドバックスピーカー（LB、RB）2本を、**PRE OUT SURROUND BACK**（プリ アウト サラウンド バック）端子に接続する場合は、"**PRE OUT の接続**"（プリ アウト）をご覧ください。 →18

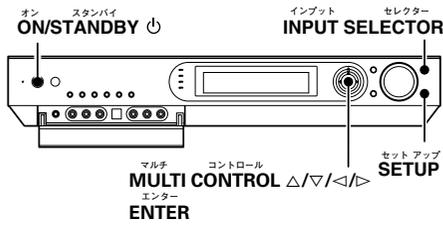
テレビとの接続

❶······	D端子（D1〜D4）コンポーネント接続
❷- - -	S ビデオ接続
❸- - -	コンポジットビデオ接続

- DVDプレーヤのビデオ入力とテレビモニターへのビデオ出力は、いづれかひとつをペアで接続します。

DVDプレーヤーとの接続

①······	D端子（D1〜D4）コンポーネント接続
②- - -	S ビデオ接続
③- - -	コンポジットビデオ接続

④	デジタルオーディオ接続（コアキシャルコード）
⑤	オーディオ接続

STEP 2 スピーカーの設定をします。

詳細は、"スピーカーの設定をする"をご覧ください。 →22 〜 →25

1 電源コードを壁コンセントに差し、を押す。

2 SETUPを押し で"SP SETUP"を選び、を押す。

ケンウッド製のスピーカーシステムKS-3100EX、KS-908HTを接続されたかた。

本機に接続するスピーカーシステムを で選び、を押す。

"**HTB1 6.1CH**"：スピーカーシステムKS-3100EXを購入しました。
"**HTB1 5.1CH**"：ここでは使用しません。
"**HTB2 6.1CH**"：ここでは使用しません。
"**HTB2 5.1CH**"：ここでは使用しません。
"**HTB3 6.1CH**"：ここでは使用しません。
"**HTB3 5.1CH**"：スピーカーシステムKS-908HTを購入しました。

内容がただしければ で"**OK**"を選び を押す。これで設定は終わりです。（"**CANCEL**"を選ぶと、設定前の状態にもどります。）

- スピーカー設定を"**HTB3 5.1CH**"にしたときは、PL IIx、DTS-ES、DOLBY EXのリッスンモードは選択できません。

お手持ちのスピーカーシステムに合わせて設定するかた。

で"**CUSTOM**"選び、を押すと各スピーカーの設定項目を選ぶことができます。

でスピーカーの設定項目を選ぶ	で設定する内容を選ぶ
SUBW	**SUBW ON**：サブウーファーを接続しました。 **SUBW OFF**：何も接続しません。
FRNT	**スピーカーのサイズは？** **LRG**：大きめのスピーカーを接続しました。 **NML**：普通のサイズのスピーカーを接続しました。
CNTR、SURR、BS	**スピーカーのサイズは？** **LRG**：大きめのスピーカーを接続しました。 **NML**：普通のサイズのスピーカーを接続しました。 **OFF**：何も接続しません。
BS/SW	**BS/SW BS**：**SURR BACK/SW**端子にサラウンドバックスピーカーを接続しました。 **BS/SW SW**：**SURR BACK/SW**端子にサブウーファーを接続しました。 **BS/SW OFF**：何も接続しません。

設定が終わったら を押す。内容がただしければ で"**OK**"を選び を押す。これで設定は終わりです。
（"**CANCEL**"を選ぶと、設定前の状態にもどります。）

- スピーカー設定を"**BS/SW OFF**"にしたときは、PL IIx、DTS-ES、DOLBY EXのリッスンモードは選択できません。
- 各スピーカーの音量レベル、スピーカーまでの距離など、さらに詳細に設定できます。 →24 →25

STEP 3 DVDプレーヤーでディスクを再生します

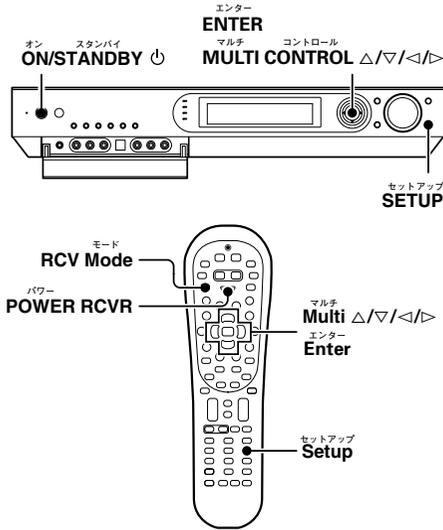
1 INPUT SELECTOR を押して、DVDを選ぶ。

2 DVDプレーヤーの再生を始める。

操作のしかたは、DVDプレーヤーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

- サラウンド再生のためのリッスンモードを選びいろいろな種類の映像ソフトを楽しんでください。 →36

スピーカーの設定をする

工場出荷時は、初期状態になっていますので、接続したスピーカー（サブウーファー、フロント、センター、サラウンド、サラウンドバック）の各種設定をします。

1 本体のON/STANDBY ⏻ キー（またはPOWER RCVRキー）を押して本機の電源をオンにする。

2 リモコンで操作するときは、リモコンのRCV Modeキーを押して、リモコンをレシーバー操作モードにする。

3 SETUPモードにする

❶ SETUPキー（またはSetupキー）を押す。

❷ MULTI CONTROL ◁ / ▷（またはMulti ◁ / ▷ キー）を押すと次の順で切り換わります。

① "SP SETUP"
② "SP LEVEL"
③ "DISTANCE"
④ "ASSIGN."
⑤ "LFE LEVEL"
⑥ "GAME FUNC"
⑦ "EXIT"

- メインの設定画面表示中、SETUPキー（またはSetupキー）を押すまたは、"EXIT"を選び、ENTER（またはEnterキー）を押すとSETUPモードを中止します。

4 設定方法を選ぶ。

❶ **"SP SETUP"を選択してENTER(またはEnterキー)をもう一度押すと、スピーカーの設定方法を選ぶことができます。**

❷ MULTI CONTROL ◁ / ▷（またはMulti ◁ / ▷ キー）を押すと次の順で切り換わります。

① "**HTB1 6.1CH**"：スピーカーシステムKS-3100EXを購入された方は、"**HTB1 6.1CH**"を選択してください。
② "**HTB1 5.1CH**"：ここでは使用しません。
③ "**HTB2 6.1CH**"：ここでは使用しません。
④ "**HTB2 5.1CH**"：ここでは使用しません。
⑤ "**HTB3 6.1CH**"：ここでは使用しません。
⑥ "**HTB3 5.1CH**"：スピーカーシステムKS-908HTを購入された方は、"**HTB3 5.1CH**"を選択してください。
⑦ "**CUSTOM**"：お手持ちのスピーカーシステムに合わせて設定ができます。（スピーカーシステムを変更された場合も設定をやり直してください。）
⑧ "**EXIT**"：**ENTER**（または**Enter**キー）を押すと、メインの設定画面表示にもどります。

- スピーカーシステムの構成が5.1チャンネルのときや"**BS/SW OFF**"のときはPL IIx、DTS-ES、DOLBY EXのリッスンモードは選択できません。

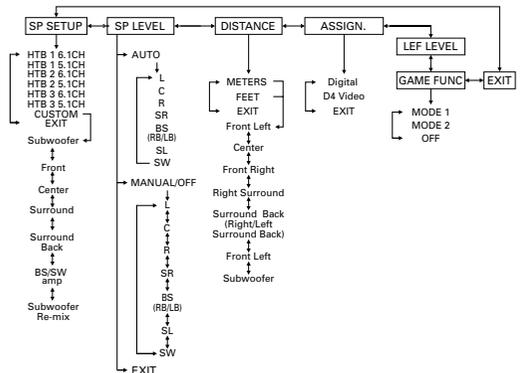
"HTB1 6.1CH"または "HTB3 5.1CH"を選んだとき：

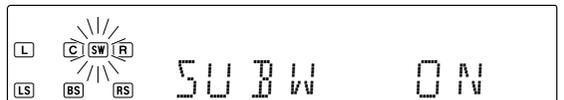
ENTER（または**Enter**キー）を押し、設定の確定をするため**MULTI CONTROL** △ / ▽（または**Multi** △ / ▽ キー）を使って"**OK**"を選択し、もう一度**ENTER**（または**Enter**キー）を押します。

- "**CANCEL**"を選ぶと、設定前の状態にもどります。
- ケンウッド製のスピーカーシステムをお使いになり、スピーカー設定で"**HTB1 6.1CH**"または"**HTB3 5.1CH**"を選択したときは、スピーカー特性に合わせて音質を自動的に補正します。

"CUSTOM"を選んだとき：

ENTER（または**Enter**キー）を押すと、さらに詳細な設定ができます。

SETUPフローは以下のようになります。

- サブウーファー設定表示"**SUBW**"になります。

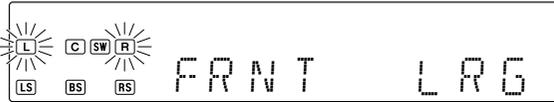
次頁に続く

5 接続しているスピーカーを選ぶ。

❶ MULTI CONTROL △ / ▽（またはMulti △ / ▽キー）を使ってサブウーファーの設定をする。

① "SUBW ON"：
サブウーファーを接続するとき。
② "SUBW OFF"：
サブウーファーを接続しないとき。

- 初期設定は "SUBW ON" になっています。
- "SUBW OFF" を選び、手順❷で MULTI CONTROL ▷（またはMulti▷キー）を押して確定した場合、フロントスピーカーは自動的に "FRNT LRG" に設定され、手順❺に進みます。

❷ MULTI CONTROL ▷（またはMulti ▷キー）を使って確定させる。

- フロントスピーカーの設定表示、"FRNT" になります。

❸ MULTI CONTROL △ / ▽（またはMulti △ / ▽キー）を使ってフロントスピーカーの設定をする。

① "FRNT LRG":
大きめのフロントスピーカーのとき。
② "FRNT NML":
普通のサイズのフロントスピーカーのとき。

- サブウーファーの設定を"SUBW ON"にして、フロントスピーカーの設定を "FRNT LRG" にしたときは、ステレオソースを再生したときにリッスンモードの設定によっては、低音はフロントスピーカーで再生し、サブウーファーから音が出ない場合があります。このような場合は、手順⓭のサブウーファーリミックスの設定を"REMIX ON"にするとサブウーファーにも低音の信号が送られます。

❹ MULTI CONTROL ▷（またはMulti ▷キー）を使って確定させる。

- センタースピーカーの設定表示、"CNTR" になります。

❺ MULTI CONTROL △ / ▽（またはMulti △ / ▽キー）を使ってセンタースピーカーの設定をする。

フロントスピーカーを "FRNT LRG" に設定したとき:

① "CNTR LRG"：
大きめのセンタースピーカーのとき。
② "CNTR NML"：
普通のサイズのセンタースピーカーのとき。
③ "CNTR OFF"：
センタースピーカーを接続しないとき。

フロントスピーカーを "FRNT NML" に設定したとき:

① "CNTR NML"：
普通のサイズのセンタースピーカーのとき。
② "CNTR OFF"：
センタースピーカーを接続しないとき。

❻ MULTI CONTROL ▷（またはMulti ▷キー）を使って確定させる。

- サラウンドスピーカーの設定表示、"SURR" になります。

❼ MULTI CONTROL △ / ▽（またはMulti △ / ▽キー）を使ってサラウンドスピーカーの設定をする。

① "SURR LRG"：
大きめのサラウンドスピーカーのとき。
② "SURR NML"：
普通のサイズのサラウンドスピーカーのとき。
③ "SURR OFF"：
サラウンドスピーカーを接続しないとき。

- "SURR OFF" を選び、手順❽で MULTI CONTROL ▷ を押して確定した場合、手順⓭に進みます。ただし、サブウーファーの設定が "SUBW OFF" のときは、手順⓮に進み、スピーカーのセットアップを終了し、手順6の各スピーカーの音量レベルを調節します。

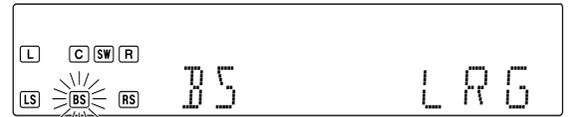
❽ MULTI CONTROL ▷（またはMulti ▷キー）を使って確定させる。

- サラウンドバックスピーカーの設定表示、"BS"になります。

❾ MULTI CONTROL △ / ▽（またはMulti △ / ▽キー）を使ってサラウンドバックスピーカーの設定をする。

サラウンドスピーカーを "SURR LRG" に設定したとき:

① "BS LRG"：
大きめのサラウンドバックスピーカーのとき。
② "BS NML"：
普通のサイズのサラウンドバックスピーカーのとき。
③ "BS OFF"：
サラウンドバックスピーカーを接続しないとき。

L C SW R
LS BS RS
BS LRG

サラウンドスピーカーを "SURR NML" に設定したとき:

① "BS NML"：
普通のサイズのサラウンドバックスピーカーのとき。
② "BS OFF"：
サラウンドバックスピーカーを接続しないとき。

❿ MULTI CONTROL ▷（またはMulti ▷キー）を使って確定させる。

- サラウンドバックまたはサブウーファースピーカーのためのBS/SWアンプ設定が表示されます。

⓫ MULTI CONTROL △ / ▽（またはMulti △ / ▽キー）を使ってBS/SWアンプの設定をする。

① "BS/SW BS"：
サラウンドバックスピーカーをSURR BACK/SW端子に接続した場合選択します。サブウーファーの信号は、PRE OUT SUBWOOFER 端子から出力します。
② "BS/SW SW"：
サブウーファースピーカーをSURR BACK/SW端子に接続した場合選択します。サラウンドバックの信号は、PRE OUT SURROUND BACK 端子から出力します。
③ "BS/SW OFF"：
SURR BACK/SW端子にスピーカーを接続していない場合選択します。サブウーファーの信号は、PRE OUT SUBWOOFER端子から出力します。サラウンドバックの信号は、PRE OUT SURROUND BACK 端子から出力します。

次頁に続く

- "BS/SW BS"を選んだときは、サラウンドバックスピーカーは、1本しか接続できません。
- "BS/SW SW"または"BS/SW OFF"を選んだときは、**PRE OUT SURROUND BACK**端子から別途パワーアンプを使用しての接続になります。この場合サラウンドバックスピーカーを2本ご用意ください。 →18

⓬ MULTI CONTROL ▷（またはMulti ▷キー）を使って確定させる。

- サブウーファーリミックスの設定表示、"REMIX"になります。

⓭ MULTI CONTROL △/▽（またはMulti △/▽キー）を使ってサブウーファーリミックスの設定をする。

サブウーファーリミックスの設定を"REMIX ON"にすると、スピーカーの設定に応じてサブウーファーに他のチャンネルの低音を付加したり、サブウーファーで再生する低音を他のチャンネルに付加して、低音の量感を増します。

① "REMIX ON"：
サブウーファーリミックスの設定をONにするとき。
② "REMIX OFF"：
サブウーファーリミックスの設定をOFFにするとき。

- 初期設定は"REMIX ON"になっています。
- サブウーファーリミックスの設定は、サブウーファーの設定を"SUBW ON"にして、フロントスピーカーの設定を"FRNT LRG"にしたときのみ設定できます。

⓮ ENTER（またはEnterキー）を押し、内容が正しければMULTI CONTROL △/▽（またはMulti △/▽キー）を使って"OK"を選択します。
ENTER（またはEnterキー）を押すと、メインの設定画面に戻ります。

- "CANCEL"を選び、ENTER（またはEnterキー）を押すと、設定前の状態にもどります。
- 手順❻、❼では、選ばれたスピーカーで、調節が必要なチャンネルのみ表示されます。

6 各スピーカーの音量レベルを調節する。

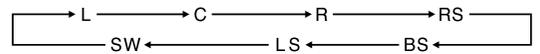
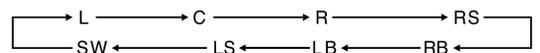
テストトーンを使い各チャンネルの音量を同じように調節します。

❶ MULTI CONTROL ◁/▷（またはMulti ◁/▷キー）を使って"SP LEVEL"を選び、ENTER（またはEnterキー）を押す。

❷ MULTI CONTROL ◁/▷（またはMulti ◁/▷キー）を使って"AUTO"、"MANUAL"または"OFF"を選択する。

① "AUTO"：テストトーンを使いスピーカーレベルを調節します。テストトーンは、自動的に各スピーカーチャンネルの順番に出力されます。
② "MANUAL"：MULTI CONTROL ◁/▷（またはMulti ◁/▷キー）を使って、テストトーンを出すスピーカーチャンネルを選ぶことが出来ます。
③ "OFF"：現在の出力信号を使いスピーカーレベルを調節します。MULTI CONTROL ◁/▷（またはMulti ◁/▷キー）を使って、出力信号を出すスピーカーチャンネルを選ぶことが出来ます。
④ "EXIT"：ENTER（またはEnterキー）を押すとメインの設定画面表示にもどります。

"AUTO"または"MANUAL"を選択し、ENTER（またはEnterキー）をもう一度押すと、テストトーンの出力が始まります。
調節したいスピーカーチャンネルからテストトーンが出ているときにMULTI CONTROL △/▽（またはMulti △/▽キー）を使って音量レベルを調節します。
"AUTO"を選択すると最初に左フロントスピーカーから2秒間テストトーンが聞こえ、その後、以下に示される順番で各スピーカーから2秒間ずつテストトーンが聞こえます。

"BS/SW BS"を選んだとき

"BS/SW SW"または"BS/SW OFF"を選んだとき

テストトーン出力中のチャンネルが点滅します。

- 再生時に各スピーカーの音量レベルを変更すると、この項で設定した内容も変わります。 →38
- スピーカー設定をOFFにすると、設定していたスピーカーレベルはリセットされます。

"MANUAL"または"OFF"を選択した場合、MULTI CONTROL ◁/▷（またはMulti ◁/▷キー）を使ってスピーカーチャンネルを選択し、MULTI CONTROL △/▽（またはMulti △/▽キー）を使って音量レベルを調節する。

❸ ENTER（またはEnterキー）を押すとメインの設定画面に戻ります。

- テストトーンが止まり、メインの設定画面に戻ります。

7 スピーカーまでの距離を入力する。

スピーカーから出力された信号が同時にリスニングポジションに到達するように設定します。

リスニングポジション（聴く位置）から各スピーカーまでの距離をはかる。

メモしておきましょう。

フロントスピーカー(L)まで	________ メートル
センタースピーカー(C)まで	________ メートル
フロントスピーカー(R)まで	________ メートル
サラウンドスピーカー(RS)まで	________ メートル
サラウンドバックスピーカー(RB)まで	________ メートル
サラウンドバックスピーカー(LB)まで	________ メートル
サラウンドスピーカー(LS)まで	________ メートル
サブウーファー(SW)まで	________ メートル

❶ **MULTI CONTROL ◁/▷（または Multi ◁/▷ キー）を使って設定メニューの "DISTANCE" を選び、ENTER（または Enter キー）を押す。**

❷ **MULTI CONTROL ◁/▷（または Multi ◁/▷ キー）を使って単位を選び、ENTER（または Enter キー）を押す。**
- ① "**METERS**"
- ② "**FEET**"
- ③ "**EXIT**"：**ENTER**(または **Enter** キー)を押すとメインの設定画面表示にもどります。

❸ **MULTI CONTROL ◁/▷（または Multi ◁/▷ キー）を使ってスピーカーを選択し、MULTI CONTROL △/▽（または Multi △/▽キー）を使ってフロントスピーカーからの距離を設定する。**

調節するスピーカーが点滅します。
- 選ばれたスピーカーが表示部に表示されます。正しく選ばれているかを確認してください。

メートル表示

- 0.3m ～ 9.0m まで、0.3m ごとに調節できます。

❹ **手順❸を繰り返して各スピーカーまでの距離を入力する。**

❺ **ENTER（または Enter キー）を押すとメインの設定画面に戻ります。**

8 LFE レベルの調節をする。

ドルビーデジタル、DTS または AAC 信号の低音の音場効果専用信号（LFE）のレベルを調節します。

❶ **MULTI CONTROL ◁/▷（または Multi ◁/▷ キー）を使って "LFE LEVEL" を選択し、ENTER（または Enter キー）を押す。**

❷ **MULTI CONTROL △/▽（または Multi △/▽ キー）を使って、LFE レベルの調節をする。**

- LFEレベルは、0dB～－10dBまで、1dBごとに調節できます。

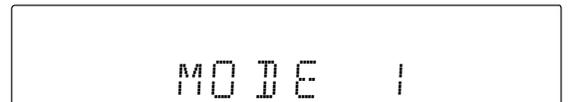
❸ **ENTER（または Enter キー）を押すとメインの設定画面に戻ります。**

9 本体前面の GAME 端子の設定をする。

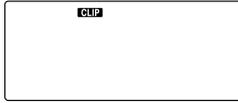
本機でゲーム機器を使用するときの便利な機能の設定をします。

❶ **MULTI CONTROL ◁/▷（または Multi ◁/▷ キー）を使って "GAME FUNC" を選択し、ENTER（または Enter キー）を押す。**

❷ **MULTI CONTROL △/▽（または Multi △/▽ キー）を使ってゲーム機能を選択する。**
- ① "**MODE 1**"：
  接続したゲーム機器の電源がONになると、自動的にインプットセレクターを "**GAME**" に切り換えます。また、ACTIVE EQ 機能が "**EQ GAME**" になり、ゲームに適したリッスンモードに切り換わります。
- ② "**MODE 2**"：
  接続したゲーム機器の電源がONになると、自動的にインプットセレクターを "**GAME**" に切り換えます。
- ③ "**OFF**"：
  ゲーム機能を OFF にします。

- **GAME** 端子の **VIDEO** 端子に映像を接続していない場合はゲーム機能ははたらきません。
- DUAL SOURCE 機能が ON のときは、ゲーム機能ははたらきません。 →28

❸ **ENTER（または Enter キー）を押すと、メインの設定画面に戻ります。**

インプットレベルの調節（アナログ再生時のみ）

アナログソースから入力されている信号が大きすぎるとき、CLIP表示が点灯します。インプットレベルを調節してください。

❶ リモコンの RCV Mode キーを押して、リモコンをレシーバー操作モードにする。

❷ Soundキーを押す。

❸ MULTI CONTROL ◁ / ▷（またはMulti ◁ / ▷キー）を使って"INPUT"表示を選択し、ENTER（またはEnterキー）を押す。

❹ MULTI CONTROL △ / ▽（またはMulti △ / ▽キー）を使って、インプットレベルを調節する。

- 調整モードは約 20 秒間表示されます。
- インプットレベルは 0dB、－3dB、－6dB の３段階で調節できます（初期設定は 0dB）。
- それぞれのインプットセレクターに異なるインプットレベルを記憶することができます。

❺ Soundキーをもう一度押して、インプットセレクター表示に戻す。

背面端子の割り付けを変更する

デジタル音声入力端子とD端子に割り付けられたインプットセレクターを変更することができます。

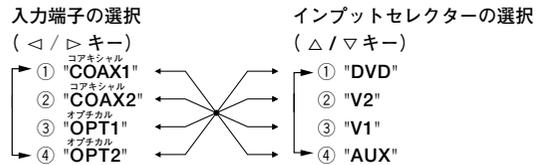
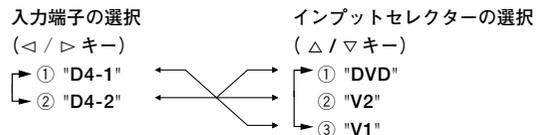
❶ SETUPキー（またはSetupキー）を押す。

❷ MULTI CONTROL ◁ / ▷（またはMulti ◁ / ▷キー）を使って"ASSIGN."を選択し、ENTER（またはEnterキー）を押す。

❸ MULTI CONTROL ◁ / ▷（またはMulti ◁ / ▷キー）を使って"DIGITAL"または"D4 VIDEO"を選択し、ENTER（またはEnterキー）を押す。

① "DIGITAL"：本機のデジタル音声入力端子を設定するときに選びます。
② "D4 VIDEO"：本機の D 端子を設定するときに選びます。
③ "EXIT"：ENTER（または Enter キー）を押すとメインの設定画面表示にもどります。

❹ MULTI CONTROL ◁ / ▷（またはMulti ◁ / ▷キー）を使って入力端子を選択し、MULTI CONTROL △ / ▽（またはMulti △ / ▽キー）を使ってインプットセレクターを選択する。

"DIGITAL" を選択したとき：

"D4 VIDEO" を選択したとき：

メモしておきましょう。

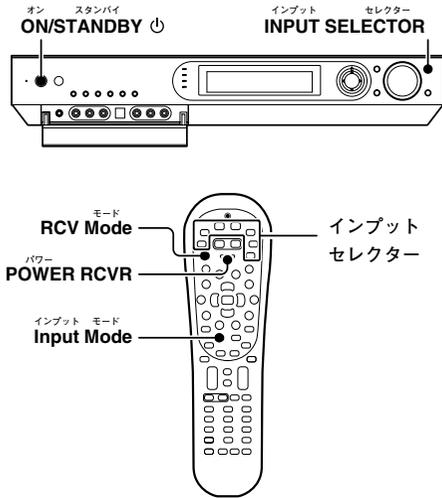
接続端子の名前	割り付けをするセレクター
COAX1（DVD）	
COAX2（VIDEO 2）	
OPT1（VIDEO 1）	
OPT2（AUX）	
D4 VIDEO INPUT IN 1（DVD）	
D4 VIDEO INPUT IN 2（VIDEO 2）	

- １つの入力端子にインプットセレクターが重複するような設定はできません。この場合は、もう一度設定しなおします。

❺ 手順❹を繰り返して入力端子に割り付けるインプットセレクターを設定する。

❻ ENTER（またはEnterキー）を押すとメインの設定画面に戻ります。

再生のしかた

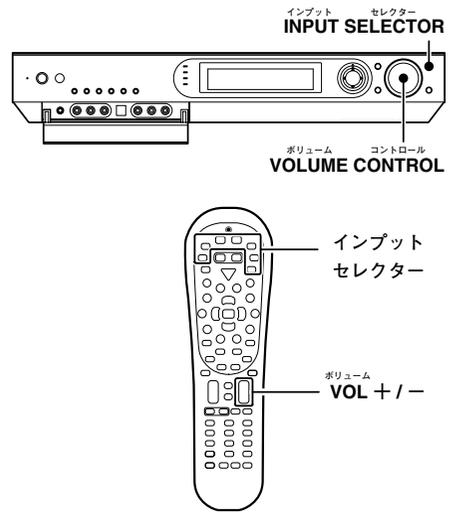
再生をする前に必要な準備をしておきましょう。

電源の入れかた

❶ 関連機器を接続し、電源をオンにする。

❷ 本体のON/STANDBY ⏻ キー(またはPOWER RCVR キー)を押して本機の電源をオンにする。

インプットモードの選択

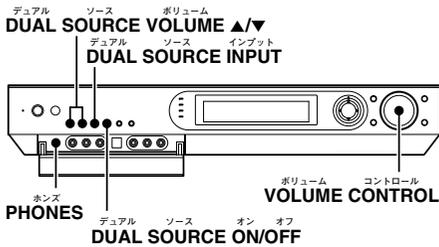
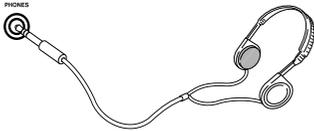
COAX 1（**DVD**）、**COAX 2**（**VIDEO 1**）、**OPT 1**（**VIDEO 2**）、**OPT 2**（**AUX**）または **DIGITAL IN**（**OPTICAL**）端子に接続した機器で再生するときは、インプットモードが接続した機器の再生する音声信号(デジタル入力またはアナログ入力）に合っていることを確認してください。 →12

普通の再生

1 **INPUT SELECTOR** キー（またはインプットセレクターキー／**DVD**、**VID1**、**VID2**、**AUX**、**F.AUX**、**Game**、**TUNER**）を使って、聴きたいソースを選ぶ。

① チューナー（FM/AM 放送受信）
② "DVD"
③ "VIDEO1"
④ "VIDEO2"
⑤ "GAME"
⑥ "FRONT AUX"
⑦ "AUX"

2 選んだソースを再生する。

3 **VOLUME CONTROL** つまみ（または **VOL ＋/－** キー）で音量を調節する。

ヘッドホンで聴く

❶ ヘッドホンをPHONES端子につなぐ。

❷ VOLUME CONTROLつまみ（またはVOL ＋/－キー）で音量を調節する。

スピーカーとヘッドホンで別のソースを楽しむ（DUAL SOURCE 機能）

スピーカーで音声を楽しむのと同時に、ヘッドホンでGAME端子または、FRONT AUX端子に接続した別のソース（音声＋映像）を視聴することができます。

❶ ヘッドホンをPHONES端子につなぐ。

❷ DUAL SOURCE ON/OFF キーを押して、デュアルソース機能をONにする。

- DUAL SOURCE 機能がONになると、映像やヘッドホンからの出力はDUAL SOURCE 専用になります。DUAL SOURCE 機能をOFFにすると、これらの出力はメインソース用になります。

点灯

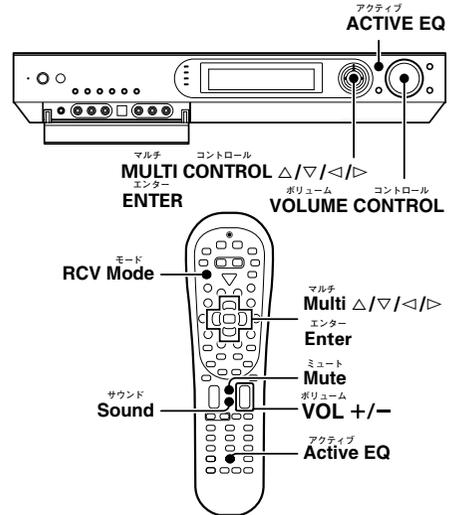
❸ DUAL SOURCE INPUT キーを押して、デュアルソースの入力を選択する。

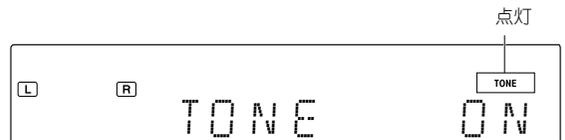
① "GAME"：
DUAL SOURCE 機能のインプットセレクターを"GAME"にします。

② "F. AUX"：
DUAL SOURCE 機能のインプットセレクターを"F.AUX"にします。

❹ DUAL SOURCE VOLUME ▲ / ▼ キーで音量を調節する。

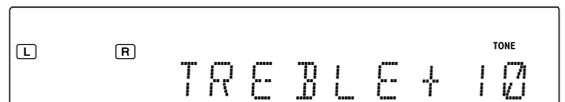
- DUAL SOURCE 機能がONになるとインプットモードは、"ANALOG"に固定されます。また、リッスンモードの切り換えはできません。 →12 →36

音の調節のしかた

トーンレベルを調節する（PCM ステレオモードかアナログステレオモードのみ）

❶ リモコンの RCV Mode キーを押して、リモコンをレシーバー操作モードにする。
❷ Sound キーを押す。
❸ MULTI CONTROL ◁ / ▷（またはMulti ◁ / ▷キー）を使って、"TONE"を選択し、ENTER（またはEnterキー）を押す。
❹ MULTI CONTROL △ / ▽（またはMulti △ / ▽キー）を使って、"TONE ON"を選択し、ENTER（またはEnterキー）を押す。

点灯

❺ MULTI CONTROL ◁ / ▷（またはMulti ◁ / ▷キー）を使って、"BASS"または"TREBLE"を選択する。

① "BASS"：バス（低音）レベルの調節
② "TREBLE" トレブル（高音）レベルの調節

❻ MULTI CONTROL △ / ▽（またはMulti △ / ▽キー）を使って、トーンレベルを調節する。

❼ 必要に応じ手順❺と❻を繰り返す。

- バスとトレブルのレベルは－10から＋10の範囲で2ステップごとに調節できます。
- 設定終了後約20秒間過ぎるとトーンレベル設定モードは自動的に終了します。

❽ Soundキーをもう一度押して、インプットセレクター表示に戻す。

ACTIVE EQ モード

ACTIVE EQ 機能を ON にするとより印象的な音声効果を楽しむことができます。

ACTIVE EQ キー（または **Active EQ** キー）を押すと以下のように切り換わります。

① "**EQ MUSIC**"：（**ACTIVE EQ** 表示が点灯）
音楽を聴くのに適しています。

② "**EQ CINEMA**"：（**ACTIVE EQ** 表示が点灯）
映画を見るのに適しています。

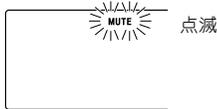
③ "**EQ GAME**"：（**ACTIVE EQ** 表示が点灯）
ゲームを楽しむのに適しています。

④ "**EQ OFF**"：（**ACTIVE EQ** 表示が消灯）
ACTIVE EQ 機能が解除されます。

- ACTIVE EQ 機能は、REC MODE、バーチャルモードが ON のときには使用できません。

一時的に音を消す

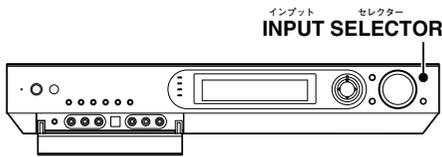
Muteキーを使ってスピーカーやヘッドホンから出る音を消すことができます。

Mute キーを押す。

解除するには

もう一度 Mute キーを押して "MUTE" 表示を消灯させます。

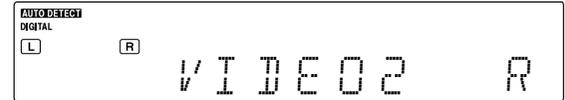
- **VOLUME CONTROL**つまみを回した場合、または**VOL ＋/－**キーを押した場合は MUTE は解除されます。

録音（録画）のしかた

アナログソース

❶ INPUT SELECTOR キー（またはインプットセレクターキー）を使って録音（録画）するソース（"VIDEO 1"以外）を選ぶ。

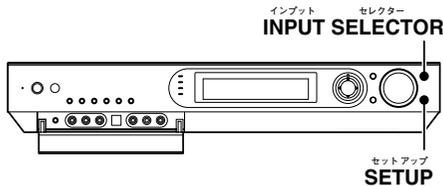
❷ VIDEO 1端子に接続した機器を録音（録画）待機状態にする。

❸ ソースを再生し、録音（録画）を開始する。

- 録画するビデオソースによってはコピープロテクトが働き、録画できないことがあります。 →50

デジタルソース

デジタル入力信号を録音するためには通常 REC モードを使用します。RECモードで録音中にデジタル入力ソースが切りかわった場合は、音がとぎれることがあります。

REC モードで録音する

ドルビーデジタル、DTS やAACのマルチチャンネルソースをRECモードで録音すると、その時のサラウンドモードを2チャンネルにダウンミックスして録音できます。

❶ INPUT SELECTOR キー（またはインプットセレクターキー）を使って録画するソース（"DVD"、"VIDEO 2"、"AUX"または"GAME"）を選ぶ。

❷ VIDEO 1端子に接続した機器を録音待機状態にする。

❸ デジタル入力中に SETUP キー（または Setup キー）を2秒以上押して、"REC MODE"を選ぶ。

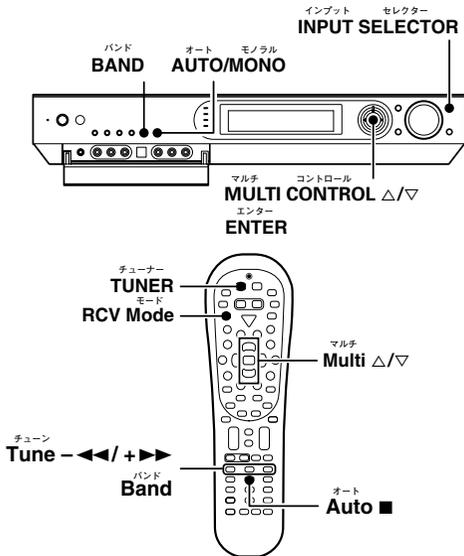
① REC モードオフ
② "REC MODE": REC モードオン
マルチチャンネルデジタル信号（DTS、ドルビーデジタル、AAC）は2チャンネルにダウンミックスしてアナログ録音端子（REC OUT）から出力します。

表示は自動的に切り換わります。

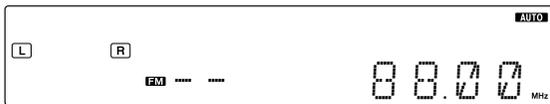
❹ ソースを再生し、録音を開始する。

放送を聴く

放送局を最大 40 局まで記憶できます。ワンタッチで受信することもできます。

放送を受信する

1 INPUT SELECTOR キー（または TUNER キー）を使ってチューナーを選ぶ。

2 BAND キー（または Band キー）で放送バンドを選ぶ。

押すたびにバンドが切り換わります。

3 AUTO/MONO キー（または Auto ■）を使って選局方法を選ぶ。

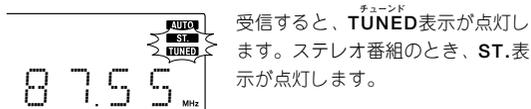
押すたびに以下のように選局方法が切り換わります。

① オート選局：（AUTO 表示が点灯）
② マニュアル選局：（AUTO 表示が消灯）

オート選局にするとAUTO表示が点灯します。

- 通常は、"AUTO"（オート選局）にしておきます。電波が弱く、雑音が多いときは、マニュアル選局にします。（マニュアル選局のとき、ステレオ放送はモノラル受信になります。）

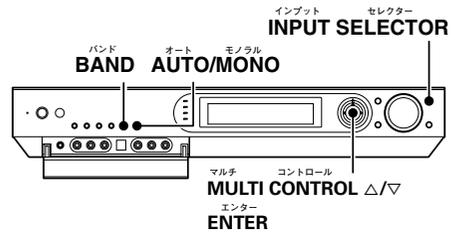
4 MULTI CONTROL △ / ▽（または Multi △ / ▽ キー、Tune ー / 十キー）を使って放送局を選ぶ。

受信すると、TUNED表示が点灯します。ステレオ番組のとき、ST.表示が点灯します。

オート選局のとき ：

自動的に次の放送局を受信します。

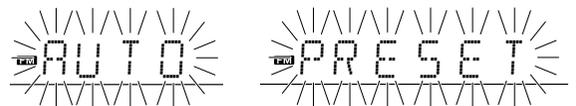
マニュアル選局のとき：

受信するまで、MULTI CONTROL △ / ▽（またはMulti △ / ▽ キー）を押します。

放送局を記憶させる

オートプリセット（FM 放送局のみ）

1 INPUT SELECTORキー（またはTUNERキー）を使ってチューナーを選ぶ。

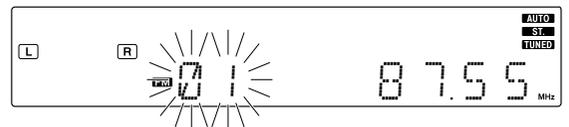
2 BANDキー（またはBandキー）を使ってFM放送バンドを選ぶ。

3 本体の ENTER を 2 秒以上押す。

"AUTO" 表示と "PRESET" 表示が交互に点滅表示されます。

- 放送局を最大 40 局まで記憶できます。
- オートプリセットで希望のFM放送局が記憶されないときやAM放送局は、マニュアルプリセットで記憶させてください。

マニュアルプリセット

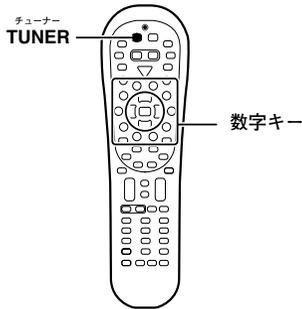
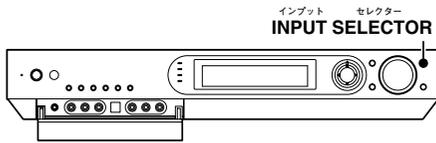
1 記憶させたい放送局を受信する。

2 受信中に本体の ENTER を押す。

5秒以内に手順3へ進む。
（5秒以上たった場合は、もう一度ENTERを押します。）

3 MULTI CONTROL △ / ▽（または Multi △ / ▽ キー）を使って 1 〜 40 のプリセット番号を選ぶ。

4 ENTER をもう一度押して確定させる。

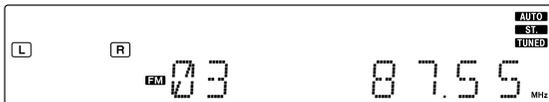
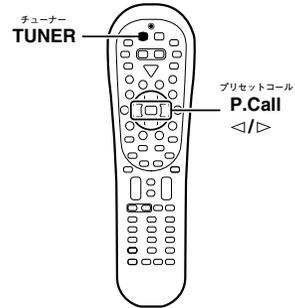
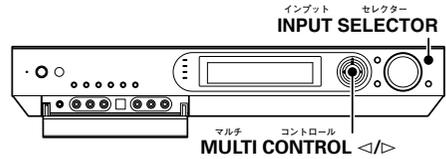
- 手順 1、2、3、4 を繰り返して、それぞれの放送局を記憶させます。
- 同じ番号に重ねて記憶させると、新しい記憶内容に変更されます。

記憶させた放送局を受信する

1 INPUT SELECTOR キー（または TUNER キー）を使ってチューナーを選ぶ。

2 数字キーで目的の放送局のプリセット番号を押す（最大 "40"）。

数字キーを押す順序は ...

"15" なら [+10], [5]
"20" なら [+10], [+10], [0]

- 10の桁を押し間違えたときは、**+10**キーを数回押し、元の表示に戻してから入力し直してください。

記憶させた放送局を順に聴く（P.Call）

1 INPUT SELECTOR キー（または TUNER キー）を使ってチューナーを選ぶ。

2 MULTI CONTROL ◁ / ▷（またはP.Call ◁ / ▷キー）を使って選局する。

3 キーを押すたびに、記憶されている放送局が順に切り換わります。

P.Call ▷ キーを押すと次のように切り換わります。

→ 01 → 02 → 03 → ... → ... → 38 → 39 → 40 →（01へ戻る）

P.Call ◁ キーを押すと次のように切り換わります。

01 ← 02 ← 03 ← ... ← ... 38 ← 39 ← 40 ←（01から40へ）

▷キーまたは◁キーを押したままにすると、約0.5秒間隔で、放送局をスキップします。

臨場感を楽しむ

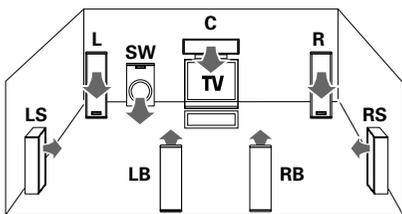
本機のリッスンモードを使って、いろいろな種類の映像ソフトで、臨場感をお楽しみいただけます。
サラウンドモードを最高の状態でお使いいただくため、ご使用前に、スピーカーの設定を行ってください。 →22

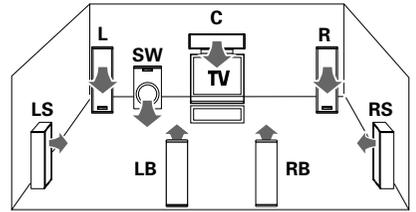
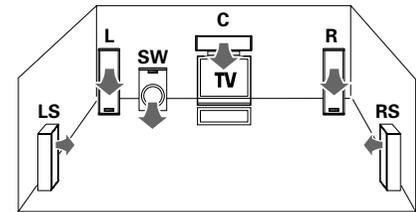
サラウンドモードの種類

Dolby Digital EX

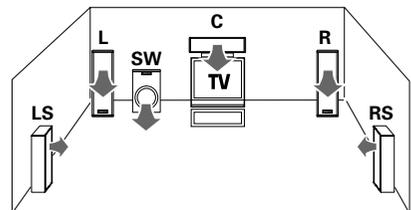
Dolby Digital EXはDolby Digitalの延長線上の技術です。Dolby Digital EXは6.1チャンネルのソースから各チャンネルが音声帯域全体をカバーする６つの出力チャンネルを再生します。これはマトリクスデコーダーを使い２つのサラウンドチャンネルから３つのサラウンドチャンネルをとりだすことにより実現されます。各サラウンドチャンネルはサラウンドレフト、サラウンドライトおよびサラウンドバックでそれぞれのスピーカー群を駆動します。背後にサラウンドバックスピーカーを置くことを想像してみて下さい。これにより音に包まれる、または飛び回る音を再現することができ、より自然な音響効果を楽しむことができます。Dolby Digital EX はDolby Digital Surround EX技術を使って録音されたサウンドトラックの再生に適しています。

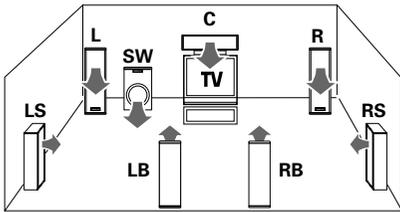
ご注意

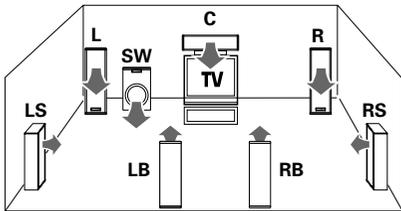
Dolby Digital Surround EX技術を使って録音されたサウンドトラックはDolby Digital EX を作動させるためのフラッグ（符合）もあわせて録音されていますが、2001年以前に発売されたCD,DVDまたはLDはこのフラッグが録音されていないため手動でリッスンモードを設定しなければならないものもあります。
本機はフロントスピーカーだけを接続していても、ドルビーデジタルサラウンドがプログラムされているソースをお楽しみいただけますが、すべてのスピーカーを設置すると理想的なドルビーデジタルサラウンドがお楽しみいただけます。

Dolby PRO LOGIC IIx、*Dolby PRO LOGIC II*

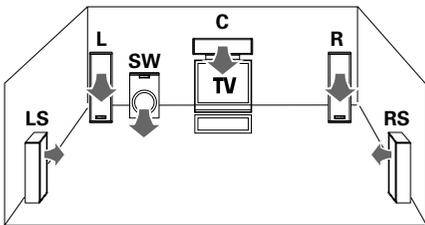
この新しいサラウンドシステムは、特に空間的な広がりや指向性、音の明瞭さに重点をおいて設計されています。すぐれたフィードバックロジック設計を内蔵し、サラウンドやステレオのマトリックスデコーディング、全帯域サラウンド出力が特長です。
本機にプログラムされている Dolby PRO LOGIC IIx モードは、MOVIE、MUSIC、GAME の３種類です。Dolby PRO LOGIC IIx の MOVIE モードには、計算された質の高いサラウンドサウンドを再生するようプログラムされています。一方MUSIC モードはサウンド空間を好みに合わせて最善の状態に調整できるよう、「Dimension」「Center Width」「Panorama」モードといったコントローラが用意されています。「Dimension」はサウンド空間の状態を前後の方向へ調整し、「Center Width」は左右およびセンタースピーカーのバランスを調整します。「Panorama」はサラウンドスピーカーを含めて前面のステレオ感を大きく拡大し、部屋全体を使って「音に包まれる」ような感覚を味わうことができます。GAME モードはゲームに適したモードで、迫力感を高めます。

Dolby
PRO LOGIC IIx

Dolby
PRO LOGIC II

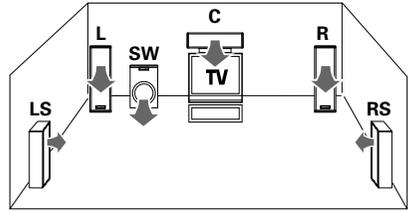
Dolby Digital

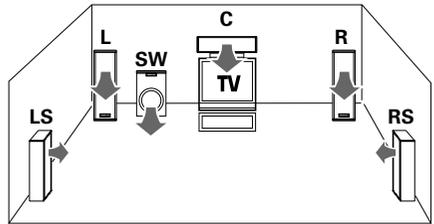
ドルビーデジタルサラウンドモードでは、ドルビーデジタルプログラムソース（マークの付いたDVDやレーザーディスクソフトなど）からの5．1チャンネルのデジタル入力を、デジタルサラウンドサウンドでお楽しみいただけます。今までのドルビーサラウンドと比べて、ドルビーデジタルモードは、音質、空間的な広がり、そしてダイナミックレンジの面で、はるかに優れた効果を演出します。
本機はフロントスピーカーだけを接続していても、ドルビーデジタルやドルビープロロジックがプログラムされているソースをお楽しみいただけますが、すべてのスピーカーを設置すると理想的なドルビーデジタルサラウンドがお楽しみいただけます。

DTS-ES

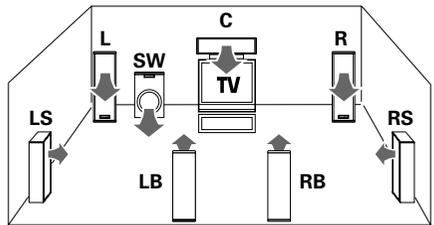
DTS-ES（Extended Surround）は 従来の5.1chのサラウンドを発展させ、サラウンドバックチャンネルが加わった6.1chサラウンド方式です。DTS-ESフォーマットはDVD, CD または LD等のメディアにあらかじめ記録され、完全に独立したサラウンドバックを持つ DTS-ES Discrete 6.1 と マトリクス技術を駆使し左右のサラウンドチャンネルに埋め込まれたサラウンドバックを再生する DTS-ES Matrix 6.1 の 2 つのモードがあり、どちらも従来の5.1chフォーマットとの互換性を完全に持ちます。加えられたサラウンドバックチャンネルによる6.1chサラウンド再生は 後方からの音像定位感が増し、より自然な臨場感、音響効果をもたらします。DTS-ES 技術を使って記録されたプログラムソースには Discrete と Matrix のモードを動作させる情報もあわせて記録されていて、この製品は自動的にモードを選択します。

NEO:6

NEO:6 はDTS 社が開発した新しい技術で、高精度のマトリクス処理技術により 2 チャンネル信号から臨場感あふれる高品位な 6 チャンネルサラウンドを楽しむことが可能です。
NEO:6 には映画を楽しむための "CINEMA" モードと音楽を楽しむための "MUSIC" モードの 2 つのモードがあります。

DTS 96/24

DVDビデオの画質に制限をあたえずに、40 kHzを超える広帯域、高分解能の5.1チャンネル再生が可能です。また従来のDTSサラウンドフォーマットとも互換性を持つのでDTSやDTS-ESデコーダーしかもたないAVアンプでもDTS5.1チャンネルサラウンドとして再生可能です。

DTS

DTSは、ドルビーデジタルを上回るデータ量を持ち、より高音質のサラウンド再生ができます。dts マークのついたDVDやレーザーディスクソフトなどを再生することができます。信号のチャンネル数は、ドルビーデジタルと同じ5.1チャンネルですがデジタル録音時の音声圧縮率を低くしたフォーマットであるため、音の厚みのある高S/Nの再生が可能になっています。またダイナミックレンジが広くチャンネルセパレーションに優れるなど精密で雄大なサラウンドが特長です。

MPEG2 AAC マルチチャンネルモード

地上波デジタル放送やBSデジタル放送（マルチチャンネル）の音声フォーマットであるAAC方式（Advanced Audio Coding）に対応。配信されるマルチチャンネルの映画などを最大5.1チャンネルの臨場感あふれるサラウンド再生が楽しめます。

DSP モード

DSP（デジタルシグナルプロセッサー）サラウンドモードは、ソースに合わせて劇場やコンサートホールなどの雰囲気を選択することができます。CDプレーヤーやテレビ、FMラジオなどのステレオ信号を入力しているときに有効です。
コンサートやスポーツなどをよりいっそうお楽しみいただけます。

DSP について

通常音質は周囲の環境、特に残響音によって左右されます。DSPは入力ソースに、その音質をそこなわず、コンサートホールなどの残響音を加えるものです。

LFE = Low Frequency Effectsの略。このチャンネルは、サブウーファーに、指向性のない低周波数信号を送り、より深みのある低音の音場効果を再現します。
ドルビーデジタル、DTSやAACフォーマットでLFEチャンネルが入力されているときは、ディスプレイに "**LFE**" 表示が点灯します。

Dolby Virtual Speaker

Dolby Virtual Speaker は、サラウンド音場を仮想化します。
部屋にマルチスピーカーを設置したような効果を実現します。

Dolby Headphone

ヘッドホンで音楽を聴くと、左の音であれば直接左の耳だけでそれを聞くことになり、たとえば前方に音像があるようには聞こえません。Dolby Headphoneでは、仮想的なルームシミュレーションを行い、その音響特性を左右のヘッドホン信号に畳み込んでいます。スピーカーで聴く場合と同質の成分を左右の耳で聞くことにより、あたかも前方に音源があるように感じるのです。

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。DOLBY、PRO LOGIC、SURROUND EX及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

「DTS」、「DTS-ES Extended Surround」、「Neo:6」及び「DTS 96/24」はデジタルシアターシステムズの商標です。

バーチャルモード

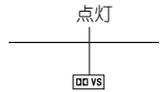
お使いのスピーカーが2つのときやヘッドホンをお使いのときでも迫力あるサラウンドをたのしむことができます。

- Dolby Virtual Speaker モード、Dolby Headphoneモード中では、2 チャンネルでのリッスンモードのみ選択できます。また、再生する信号によっては希望のリッスンモードを選択できない場合があります。 →36

Dolby Virtual Speaker モードの設定（ヘッドホンを使用しないとき）：
Dolby Virtual キーを押すと以下のように切り換わります。

① "**DVS WIDE**"：
仮想化したサラウンド効果に、さらに広がりと空間をもたせることができます。
② "**DVS REF**"：＊
標準的な設定です。
③ "**DVS OFF**"：解除

点灯
DD VS

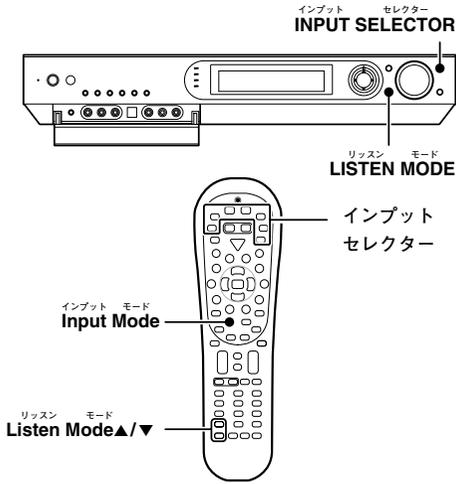
＊ サラウンドスピーカーの設定がOFFのときのみ選ぶことができます。

Dolby Headphoneモードの設定（ヘッドホンを使用するとき）：
Dolby Virtual キーを押すと以下のように切り換わります。

① "**DH 1**"：小さな音響的にドライな部屋
② "**DH 2**"："**DH 1**" よりライブな部屋
③ "**DH 3**"："**DH 1**" より大きな部屋で距離感や音の拡散効果が得られます。
④ "**OFF**"：解除

点灯
DD H

- デュアルソースモードやREC MODEが ON のときにはDolby Virtual Speaker モード、Dolby Headphoneモードははたらきません。

サラウンド再生

再生する入力信号に合わせて、お好みのリッスンモードを選択することができます。

準備しましょう

- 使用する関連機器の電源をオンにする。
- 再生の準備をする（「スピーカーの設定をする」）。 →22
- インプットセレクターキーで再生したい入力ソースを選ぶ。
- **Input Mode**キーで、再生したいソースのインプットモード（アナログまたはデジタル）を選ぶ。 →12
- インプットモードをアナログに設定するとDTSソースを再生したときに雑音がでることがあります。

1 ビデオソフトなどを再生する。

2 **LISTEN MODE キー（または Listen Mode▲/▼ キー）でリッスンモードを選ぶ。**

リッスンモードの設定は、それぞれのインプットセレクターで独立して記憶しています。インプットモードがフルオートに設定されていると（**AUTO DETECT** 表示が点灯）、入力信号のタイプやスピーカー設定の内容に合うリッスンモードが自動的に選ばれます。

LISTEN MODE キー（または Listen Mode▲/▼ キー）を押すたびに設定がかわります。

リッスンモードは、現在の入力信号の種類やスピーカーの設定で選択できるモードが異なります。

- マルチチャンネル再生をしているときには "**MULTI CH**" 表示が点灯します。

DOLBY DIGITAL EX または DOLBY DIGITAL を再生しているときに選択できるリッスンモード：

（"**Dolby D**" 表示点灯）

主なメディアの例
DVD などのマルチチャンネルのデジタルソース

① "**DOLBY D**"：
DOLBY DIGITAL サラウンド

② "**DOLBY D EX**"：
DOLBY DIGITAL EX サラウンド

③ "**DOLBY D＋PLIIx MOVIE**"：
DOLBY DIGITAL サラウンド＋
DOLBY PRO LOGIC IIx サラウンド MOVIE モード＊

④ "**DOLBY D＋PLIIx MUSIC**"
DOLBY DIGITAL サラウンド信号＋
DOLBY PRO LOGIC IIx サラウンド MUSIC モード

⑤ "**STEREO**"：通常のステレオ再生

＊ サラウンドバックスピーカーが2本のときにのみ選択できます。

- お好みにあわせてミッドナイトモードの調節ができます。 →40

DTS、DTS-ES（マトリックスまたはディスクリート）または DTS-96/24 信号を再生しているときに選択できるリッスンモード：

（"**DTS**" 表示点灯）

主なメディアの例
DVD などのマルチチャンネルのデジタルソース

① "**DTS**"：
DTS サラウンド

② "**DTS＋NEO6 CINEMA**"：
DTS サラウンド＋NEO:6 CINEMA モード

③ "**DTS-ES MATRIX 6.1**"：
DTS-ES 6.1 チャンネルマトリクスサラウンド＊1

④ "**DTS-ES DISCRETE 6.1**"：
DTS-ES 6.1 チャンネルディスクリートサラウンド＊2

⑤ "**DTS 96/24**"：
DTS 96/24 サラウンド＊3

⑥ "**STEREO**"：通常のステレオ再生

＊1 DTS-ES 6.1chマトリクスサラウンドのときにのみ選択できます。
＊2 DTS-ES 6.1chディスクリートサラウンドときにのみ選択できます。
＊3 DTS 96/24 サラウンドのときにのみ選択できます。

- お好みにあわせてミッドナイトモードの調節ができます。 →40

AAC信号を再生しているときに選択できるリッスンモード：

（"**AAC**" 表示点灯）

主なメディアの例

地上波デジタル放送やBSデジタル放送などのマルチチャンネルのデジタルソース

① "**AAC**"：
AAC サラウンド

② "**AAC+PL IIx MOVIE**"：
AAC サラウンド + DOLBY PRO LOGIC IIx サラウンド MOVIE モード

③ "**AAC+PL IIx MUSIC**"：
AAC サラウンド + DOLBY PRO LOGIC IIx サラウンド MUSIC モード

④ "**STEREO**"：通常のステレオ再生

- AACのマルチチャンネル信号を受信しない場合は、チューナー側で音声を切り換えてください。また、AACの2チャンネル信号は、PCM信号に変換します。
- 二重音声放送の主音声／副音声の切り換えは、"**主音声／副音声の切り換え**" をご覧ください。 →39

アナログ信号またはPCM信号を再生しているときに選択できるリッスンモード：

主なメディアの例：

DVD の 96kHz リニア PCM や CD などのデジタルソース。
ビデオやラジオ放送などのアナログソース。

① "**PL IIx MOVIE**"：
DOLBY PRO LOGIC IIx サラウンド MOVIE モード *1

② "**PL IIx MUSIC**"：
DOLBY PRO LOGIC IIx サラウンド MUSIC モード *1 *2

③ "**PL IIx GAME**"：
DOLBY PRO LOGIC IIx サラウンド GAME モード *1

④ "**PL II MOVIE**"：
DOLBY PRO LOGIC II サラウンド MOVIE モード

⑤ "**PL II MUSIC**"：
DOLBY PRO LOGIC II サラウンド MUSIC モード *2

⑥ "**PL II GAME**"：
DOLBY PRO LOGIC II サラウンド GAME モード

⑦ "**PRO LOGIC**"：
DOLBY PRO LOGIC II サラウンド

⑧ "**NEO6 CINEMA**" または "**NEO6 96K CINEMA**"：
NEO:6 CINEMA モード

⑨ "**NEO6 MUSIC**" または "**NEO6 96K MUSIC**"：
NEO:6 MUSIC モード *3

⑩ "**ARENA**"：
DSP サラウンド ARENA モード *4

⑪ "**JAZZ CLUB**"：
DSP サラウンド JAZZ CLUB モード *4

⑫ "**THEATER**"：
DSP サラウンド THEATER モード *4

⑬ "**STADIUM**"：
DSP サラウンド STADIUM モード *4

⑭ "**DISCO**"：
DSP サラウンド DISCO モード *4

⑮ "**STEREO**"：通常のステレオ再生 *5

*1 Dolby Virtual Speaker モード、Dolby Headphoneモード中には選べません。
*2 お好みにあわせてPANORAMA、DIMENSIONやCENTER WIDTHの各モードを使い、音場が調節できます。 →39→40
*3 お好みにあわせてCENTER IMAGEモードを使い、音場が調節できます。 →40
*4 Dolby Virtual Speaker モード、Dolby Headphoneモード中や96 kHz リニアPCM信号では選べません。お好みにあわせてDSPモードでの効果レベルを調節することができます。 →38
*5 Dolby Virtual Speaker モード、Dolby Headphoneモード中には、ドルビーデジタルまたはAAC信号をステレオモードにできません。

3 音量を調節する。

ご注意

- 入力信号の種類や設定したスピーカーのタイプによって、選ぶことができないモードがあります。
- サラウンド効果がうまく得られない場合や、お好みのモードが選べない場合は、スピーカーの設定、インプットモードの設定をご確認ください。 →12→22

Dolby Digital Surround EX 対応ディスクについて：

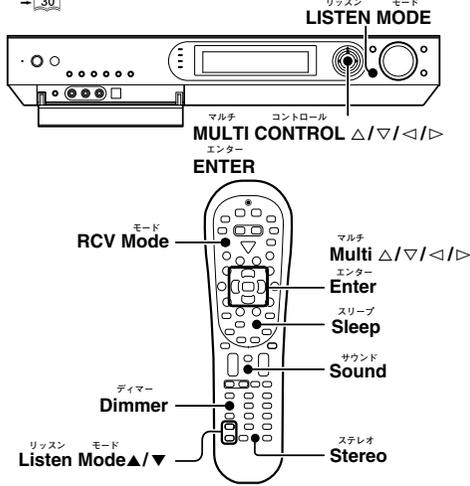
Dolby Digital Surround EX 対応ディスクには識別信号が記録されています。本機のインプットモードの設定(→12)でFULL AUTOを選んだときには、そのディスクの識別信号によりリッスンモードをDOLBY D EX(Dolby Digital EX モード)に切り換えて再生します。まれに対応ディスクであっても、この識別信号が記録されていないディスクがあります。ディスクのパッケージやレーベルに"Surround EX"、"サラウンドEX"等の表記があれば、識別信号のないディスクでもリッスンモードをDOLBY D EXに切り換えると、Dolby Digital EXモードで再生できます。

リッスンモードを一時的に STEREO モードにするには

Stereo キーを押すと、現在選択されているリッスンモードを一時的にSTEREO モードに切り換えることができます。もう 1 回押すと、元のリッスンモードに戻ります。

- インプットセレクターを切り換えたり、電源を切り再び電源をオンにしたときも、元のリッスンモードに戻ります。

再生中にお好みで音を調節することができます。

- RECモードがONのときには、Soundキーを使う操作はできません。 →30

音を調節するには

❶ **リモコンの RCV Mode キーを押して、リモコンをレシーバー操作モードにする。**

❷ **Soundキーを押す。**

❸ **MULTI CONTROL ◁ / ▷（またはMulti ◁ / ▷キー）を使って、設定項目を選択しENTER（またはEnterキー）を押す。**

このとき、モードによっては表示されない項目があります。

① "**SP LEVEL**"：*1
各スピーカーの音量レベルの調節
② "**INPUT**"：（アナログモードのみ） →26
インプットレベルの調節
③ "**TONE**"：*2 →28
トーンレベルの調節
④ "**EFFECT**"：（DSP モードのみ）
DSP 効果レベルの調節
⑤ "**DUAL MONO**"：*3 →39
Stereo／主音声／副音声／主＋副音声の選択
⑥ "**MIDNIGHT**"：*4 →40
ミッドナイトモードの調節
⑦ "**PANORAMA**"：*5 →39
パノラマモードのオン / オフ
⑧ "**DIMENSION**"：*5 →39
ディメンションの調節
⑨ "**C WIDTH**"：*5 →39
センター幅の調節
⑩ "**C IMAGE**"：*6 →40
センターイメージモードの調節

*1 SOUND モードでの設定は一時的な設定です。
電源のオン / オフで、最初の "**スピーカーの設定をする**" で設定した値に自動的に戻ります。
*2 PCM ステレオまたはアナログステレオモードのみ
*3 AAC、DOLBY DIGITAL モードのみ
*4 DOLBY DIGITAL、DTS モードのみ
*5 DOLBY PRO LOGIC IIx MUSIC、DOLBY PRO LOGIC II MUSIC モードで入力信号が 2 チャンネルのときのみ
*6 NEO:6 MUSIC モードで入力信号が 2 チャンネルのときのみ

❹ **MULTI CONTROL △ / ▽（またはMulti △ / ▽キー）を使って、レベルの調節や設定をする。**

- 調整項目は約 20 秒間表示されます。

❺ **Soundキーをもう一度押して、インプットセレクター表示に戻す。**

各スピーカーの音量レベルを調節する

再生中にセンタースピーカー、サブウーファー、サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーの各チャンネルの音量を調節することができます。

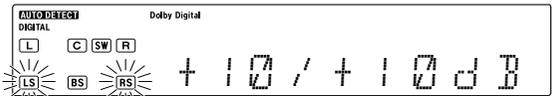
❶ **リモコンの RCV Mode キーを押して、リモコンをレシーバー操作モードにする。**

❷ **Soundキーを押す。**

❸ **MULTI CONTROL ◁ / ▷（またはMulti ◁ / ▷キー）を使って、"SP LEVEL"を選択し、ENTER（またはEnterキー）を押す。**

❹ **MULTI CONTROL ◁ / ▷（またはMulti ◁ / ▷キー）を使って調節するスピーカを選択する。**

① サブウーファーレベルの調節（"**SW**" 表示が点滅）
② センタースピーカーレベルの調節（"**C**" 表示が点滅）
③ サラウンドスピーカーレベルの調節（"**LS**"、"**RS**"表示が点滅）
④ サラウンドバックスピーカーレベルの調節（"**LB**"、"**RB**"または "**BS**" 表示が点滅）

❺ **MULTI CONTROL △ / ▽（またはMulti △ / ▽キー）を使って、好みの音量に調節します。**

- 各チャンネルともレベルは-10dBから+10dBの範囲で1dBずつ調節できます。

❻ **必要に応じ手順❹と❺を繰り返す。**

❼ **Soundキーをもう一度押して、インプットセレクター表示に戻す。**

- SOUND モードでの設定は一時的な設定です。
電源のオン / オフで、最初の "**スピーカーの設定をする**" で設定した値に自動的に戻ります。

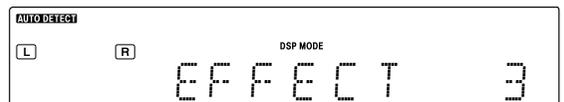
DSP 効果レベルの調節 （DSP モードのみ）

リッスンモードが DSP サラウンド（"**ARENA**"、"**JAZZ CLUB**"、"**THEATER**"、"**STADIUM**" または "**DISCO**"）のときに、DSP の効果レベルを設定することができます。

❶ **リモコンの RCV Mode キーを押して、リモコンをレシーバー操作モードにする。**

❷ **Soundキーを押す。**

❸ **MULTI CONTROL ◁ / ▷（またはMulti ◁ / ▷キー）を使って"EFFECT"を選択し、ENTER（またはEnterキー）を押す。**

❹ **MULTI CONTROL △ / ▽（またはMulti △ / ▽キー）を使って、効果レベルを調節する。**

- DSP 効果レベルは 1 から 5 の範囲で調節できます。

❺ **Soundキーをもう一度押して、インプットセレクター表示に戻す。**

主音声／副音声の切り換え

(AAC、DOLBY DIGITAL のみ)

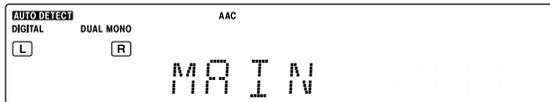
地上波デジタルやBSデジタル放送の2ヶ国語放送、音声多重放送の二重音声放送は、主音声／副音声を切り換えることができます。

❶ **リモコンの RCV Mode キーを押して、リモコンをレシーバー操作モードにする。**

❷ **"DUAL MONO"表示が点灯中にSoundキーを押す。**

❸ **MULTI CONTROL ◁ / ▷(またはMulti ◁ / ▷キー)を使って、"DUAL MONO"を選択し、ENTER(またはEnterキー)を押す。**

❹ **MULTI CONTROL △ / ▽(またはMulti △ / ▽キー)を使って、音声を選ぶ。**

① "MAIN": 主音声を出力します
② "SUB": 副音声を出力します
③ "MAIN ＋ SUB":
主音声と副音声をミックスして出力します
④ "STEREO":
左チャンネルは主音声、右チャンネルは副音声をそれぞれ出力します

❺ **Soundキーをもう一度押して、インプットセレクター表示に戻す。**

- モノラルではない二重音声放送は、音声の切り換えは本機ではできません。チューナー側で音声を切り換えてください。

PANORAMA モード

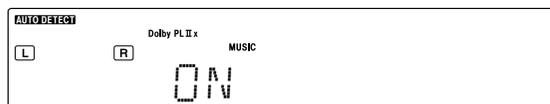
(DOLBY PRO LOGIC IIx MUSIC、DOLBY PRO LOGIC II MUSIC モードで入力信号が 2 チャンネルのときのみ)

PANORAMA モードを使って、「音に包まれる」感覚を楽しめます。

❶ **リモコンの RCV Mode キーを押して、リモコンをレシーバー操作モードにする。**

❷ **Soundキーを押す。**

❸ **MULTI CONTROL ◁ / ▷(またはMulti ◁ / ▷キー)を使って、"PANORAMA"を選択し、ENTERキーを押す。**

❹ **MULTI CONTROL △ / ▽(またはMulti △ / ▽キー)を使って、"ON"、"OFF"を選ぶ。**

❺ **Soundキーをもう一度押して、インプットセレクター表示に戻す。**

DIMENSION モード

(DOLBY PRO LOGIC IIx MUSIC、DOLBY PRO LOGIC II MUSIC モードで入力信号が 2 チャンネルのときのみ)

DIMENSION モードの調節で、全スピーカーのバランスを好みに合わせてかえることができます。

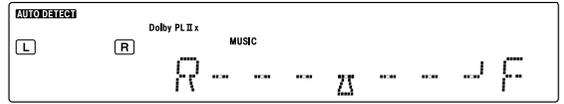
❶ **リモコンの RCV Mode キーを押して、リモコンをレシーバー操作モードにする。**

❷ **Soundキーを押す。**

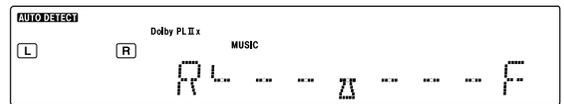
❸ **MULTI CONTROL ◁ / ▷(またはMulti ◁ / ▷キー)を使って、"DIMENSION"を選択し、ENTER(またはEnterキー)を押す。**

❹ **MULTI CONTROL △ / ▽(またはMulti △ / ▽キー)を使って、音場を前後に調節する。**

音場が前寄りになる

↓

標準的な設定です

↓

音場が後ろ寄りになる

❺ **Soundキーをもう一度押して、インプットセレクター表示に戻す。**

CENTER WIDTH モード

(DOLBY PRO LOGIC IIx MUSIC、DOLBY PRO LOGIC II MUSIC モードで入力信号が 2 チャンネルのときのみ)

PLIIx MUSIC リッスンモードでは CENTER WIDTH 設定モードを使ってセンターチャンネルの出力信号を左右のフロントスピーカーに振り分けることができ、広がりのある音を楽しむことができます。

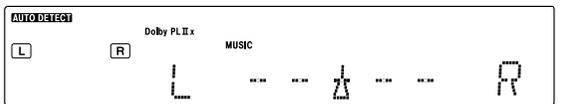
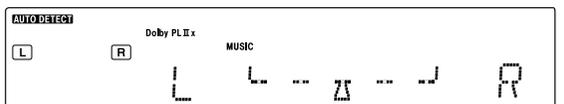
❶ **リモコンの RCV Mode キーを押して、リモコンをレシーバー操作モードにする。**

❷ **Soundキーを押す。**

❸ **MULTI CONTROL ◁ / ▷(またはMulti ◁ / ▷キー)を使って、"C WIDTH"を選択し、ENTER(またはEnterキー)を押す。**

- センタースピーカーがオフのとき、この機能は働きません。

❹ **MULTI CONTROL △ / ▽(またはMulti △ / ▽キー)を使って、左右およびセンタースピーカーの出力を調節する。**

センター成分がセンタースピーカーからのみ聞こえる

センター成分が左右スピーカーからのみ聞こえる

- センター成分の再生方法を、センタースピーカーのみの再生からフロントスピーカーのみの再生の間で調節できます。

❺ **Soundキーをもう一度押して、インプットセレクター表示に戻す。**

CENTER IMAGE モード

(DTS NEO:6 MUSIC モードで入力信号が 2 チャンネルのときのみ)

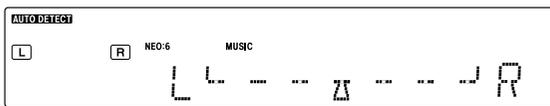
NEO:6 MUSIC リッスンモードの CENTER IMAGE 設定モードでは、センターチャンネルの出力信号を調整し、センターを強調することができます。

❶ **リモコンの RCV Mode キーを押して、リモコンをレシーバー操作モードにする。**

❷ **Soundキーを押す。**

❸ **MULTI CONTROL ◁ / ▷(またはMulti ◁ / ▷キー)を使って、"C IMAGE"を選択し、ENTER(またはEnterキー)を押す。**

- センタースピーカーがオフのとき、この機能は働きません。

❹ **MULTI CONTROL △ / ▽(またはMulti △ / ▽キー)を使って、左右およびセンタースピーカーの出力を調節する。**

- センター成分の調節をします。

❺ **Soundキーをもう一度押して、インプットセレクター表示に戻す。**

ミッドナイトモード

(DOLBY DIGITAL、DTS モードのみ)

夜中に映画を見るときなど、音量をあまり上げられないことがあります。このミッドナイトモードを選ぶと、ドルビーデジタルまたはDTSの映像ソフトであらかじめ指定されている部分(急に音量が大きくなるシーンなど)だけを、音声信号レベルの上限から下限の幅を圧縮し、指定されていない部分との音量差を少なくします。これにより、小さな音量でもすべての部分が聴きやすくなります。お好みでお楽しみください。

❶ **リモコンの RCV Mode キーを押して、リモコンをレシーバー操作モードにする。**

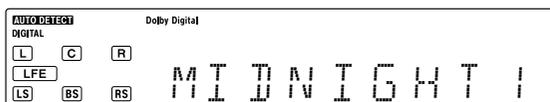
❷ **Soundキーを押す。**

❸ **MULTI CONTROL ◁ / ▷(またはMulti ◁ / ▷キー)を使って、"MIDNIGHT"を選択し、ENTER(またはEnterキー)を押す。**

- DVD、VIDEO 1、VIDEO 2、AUX または GAME の入力で、リッスンモードがドルビーデジタルまたはDTSのときのみ選べます。

❹ **MULTI CONTROL △ / ▽(またはMulti △ / ▽キー)を使って、"MIDNIGHT2"、"MIDNIGHT1"または"OFF"を選ぶ。**

① "MIDNIGHT2":効果(大)
深夜のご使用にむいています
↕
② "MIDNIGHT1":効果(中)
↕
③ "OFF"

AUTO DETECT
DIGITAL
Dolby Digital
L C R
LFE
LS BS RS
MIDNIGHT 1

- 調節項目は約 20 秒間表示されます。
- ドルビーデジタルまたはDTSの映像ソフトには、ミッドナイトモードに対応していないものもあります。

❺ **Soundキーをもう一度押して、インプットセレクター表示に戻す。**

ディスプレイの明るさを調節する

本機のディスプレイの明るさを選べます。部屋を暗くして映画を見たり、音楽を聴くときに便利です。

Dimmer キーを押すたびに3段階で切り換わります。お好みの明るさにしてください。

① 明るい
② 暗い
③ 暗い(本体 LED 表示も消灯)

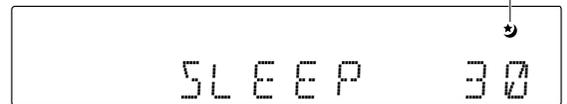
おやすみタイマー

設定したタイマー時間が過ぎると、自動的に電源がオフ(スタンバイ)になります。10 分単位で最長 90 分まで設定できます。

Sleep キーを繰り返し押して、何分後に電源をオフ(スタンバイ)にするかを選ぶ。

- 一回押すごとに 10 分ずつ増えていきます。

10 → 20 → 30 .....70 → 80 → 90 → 解除 → 10 → 20 → ...

おやすみタイマー表示が点灯

- おやすみタイマー動作中に、Sleep キーを押すと、残り時間の確認ができます。
- おやすみタイマーを解除するには、電源をオフ(スタンバイ)にするか、または Sleep キーを繰り返し押しておやすみタイマー表示を消します。

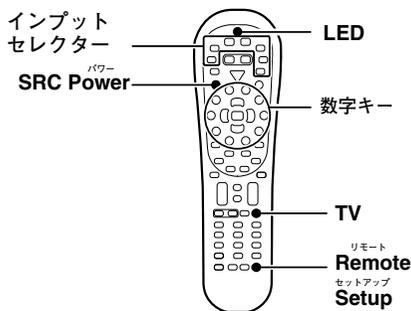
他の機器をリモコンで操作する

リモコンにセットアップコードを登録すれば本機付属のリモコンでも他社製機器の操作が可能になります。

> ***電池が消耗したときのご注意***
> 操作できる距離が短くなったら、2本とも新しい電池と交換してください。リモコンは電池を取り替えている間でも、セットアップコードのメモリーを保持するように設計されています。

お手持ちの機器のセットアップコードを登録する

リモコンのインプットセレクターキーに、お手持ちの機器のリモコンに対応するセットアップコードを登録します。お手持ちの機器を登録すると、リモコンのインプットセレクターキーで入力ソースを切り換えると本機リモコンで登録した機器を操作できるようになります。

- ＭＤ、ビデオデッキへ録音するときなど、入力ソースは切り換えずに、リモコンのみ登録した機器を操作できるように切り換えることもできます。

1 登録する機器のセットアップコードを探す。

登録する機器のセットアップコードは、セットアップコード表の中から探してください。 →43

例：ケンウッド製のDVDを登録する場合、"0490"または"0534"がセットアップコードとなります。

2 機器を登録するインプットセレクターキー（DVD、VID1、VID2、AUX、F. AUX、Game、TV）を押す。

各インプットセレクターキーに、登録できる機器は次の機器です。

インプットセレクターキー	登録できる機器	機器を接続する入力端子
DVD	DVD プレーヤー	DVD
VID1	ビデオデッキ	VIDEO1
VID2	ケーブルテレビチューナー、衛星（BS/CS）チューナー	VIDEO2
AUX	CDプレーヤー、ケンウッド製のMDレコーダー	AUX
F. AUX	DVD プレーヤー	FRONT AUX
Game	DVD プレーヤー	GAME
TV	テレビ(含むビデオ内蔵型テレビ)	―

- 登録する機器に応じた機器が、本機の入力端子に接続されているか確認してください。
- 登録できる機器の割り当てを変更すれば、2台目のDVD、CD、ビデオデッキなどを登録することができます。42ページ「インプットセレクターキーに登録できる機器の割り当をかえる」をご覧ください。

3 リモコンのLEDが2回点滅するまでRemorte Setupキーを押し続け、Remorte Setupキーをはなす。

- LEDが2回点滅後10秒以内に次の操作をしてください。

4 数字キーを使って機器に登録されている4桁のセットアップコードを入力する。

- 登録がおこなわれたときはLEDが2回点滅します。

5 登録した機器が動作するか確認する。

正しく登録が行われたかを確認するには、次の操作をし機器が動作するかを確認します。

登録された機器にリモコンを向け、**SRC Power**キー（テレビの場合は**TV Power**キー）を1回押します。正しく登録されていれば、機器の電源がオンまたはオフになります。

ビデオデッキの場合は、ビデオデッキの電源を入れ、ビデオテープを入れて再生等の操作をします。正しく登録されていれば、操作に応じて機器が動作します。

機器が動作しないときは

機器に対応したセットアップコードが複数ある場合は、他のセットアップコードで、手順3～5の登録操作をします。

- 他の機器を登録するときは、手順1～5を繰り返します。
- 登録したセットアップコードを変更するときは、あらためて手順1～5の操作をし、セットアップコードを登録し直してください。

お知らせ

各セットアップコードは多数の機器で動作するように設計されていますが、機器によっては動作しないものもあります。（また、セットアップコードによっては、利用できる機能のうち、いくつかしか操作できないものもあります。）

お手持ちの機器のセットアップコードを探し登録する

お手持ちの機器のメーカー名を特定できないときやセットアップコード表から見つけ出すことができないとき、次の方法でセットアップコードを探し、登録するすことができます。

例：テレビのセットアップコードを探すとき

1 TVキー1回押す。

テレビ以外のセットアップコードを探すときは：

TVキーのかわりに登録するインプットセレクターキーを押します。

2 リモコンのLEDが2回点滅するまでRemorte Setupキーを押し続け、Remorte Setupキーをはなす。

- LEDが2回点滅後10秒以内に次の操作をしてください。

3 数字キーで"991"を入力する。

- LEDが2回点滅します。

4 登録したいTVに向けリモコンの、TV PowerキーとTVキーを交互にゆっくりと押す。テレビの電源がオンかオフになったら操作をやめる。

- これらの操作では、リモコンからテレビの電源オン／オフの信号を送信し、コードが合えばテレビの電源はオンまたはオフになります。リモコンに登録されているコードを、一般的な製造メーカーのコードから順次送信します。

テレビ以外のセットアップコードを探すときは

DVD、CD、MD、ビデオデッキのセットアップコードを探すときは、手順1で押したインプットセレクターキーと**SRC Power**キーを交互に押し、登録する機器の電源がオンまたはオフになるかを確認します。ビデオデッキのセットアップコードを探すときは、機器の電源を入れ、テープを入れた状態で、手順1で押したインプットセレクターキー（VID1）と再生キーなどを交互に押し、登録する機器が動作するか確認します。

5 Remorte Setupキーを1回押すと、コードが確定されインプットセレクターキーに登録されます。

セットアップコードの確認

インプットセレクターキーに登録した4桁のセットアップコードを確認することができます。

1 機器を登録したインプットセレクターキーを押す。

2 リモコンのLEDが2回点滅するまでRemorte Setupキーを押し続け、Remorte Setupキーをはなす。

- LEDが2回点滅後10秒以内に次の操作をしてください。

3 数字キーで"9 9 0"を入力する。

- LEDが2回点滅します。

4 数字キー"1"を押します。

4桁のコードの最初の桁の数字と同じ回数だけLEDが点滅します。登録されているセットアップコードが"1338"の場合、ここでは1回LEDが点滅します。コードの数字が"0"のときは、LEDは点滅しません。

5 手順 4 と同様に数字キー"2"、"3"、"4"と順番に押し、それぞれの点滅回数を読み取りセットアップコードの各桁の数字を確認します。

インプットセレクターキーに登録できる機器の割り当てをかえる

各インプットセレクターキーには、セットアップコードを入力して登録可能な機器があらかじめ割り当てられていますが、割り当てを変更することができます。

例えば、初期状態ではインプットセレクター**VID1**キーはビデオデッキが登録できますが、**VID1**キーに**DVD**キーと同様にDVDプレーヤーを登録するには次のようにキーの置き換え操作（インプットセレクターキーに登録可能な機器の変更）をします。

1 リモコンのLEDが2回点滅するまでRemorte Setupキーを押し続け、Remorte Setupキーをはなす。

- LEDが2回点滅後10秒以内に次の操作をしてください。

2 数字キーで"9 9 2"を入力する。

- LEDが2回点滅します。

3 DVDキーを1回押し、VID1キーを1回押します。

LEDが2回点滅し、**DVD**キー とともに**VID1**キーにもDVDプレーヤーを登録することができるようになります。使用する機器に応じたセットアップコードを登録してください。

手順 3 で押すキーを置き換えることにより、インプットセレクターキーに登録できる機器をいろいろな組み合わせでかえることができます。例えば、インプットセレクター"A"キーに"B"キーと同じ機器を登録できるようにキーの置き換えをするときは、数字キー"9 9 2"の次に"B"キー、"A"キーの順にキーを押します。

- インプットセレクターキーとお手持ちの機器の関連づけの組み合わせについては、前ページの表を参照してください。
- キーの割り当てを元にもどすには、"9 9 2"の次にもどすインプットセレクターキーを2回押します。
- **TUNER**キーは、登録できません。

キーの置き換えとキーを押す順番の例

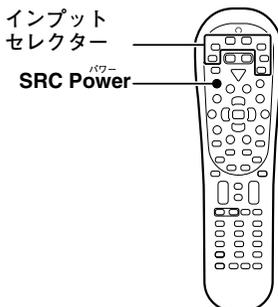
VID1キーにDVDプレーヤーを登録する

VID1キーをDVDにする	"9 9 2"	➡ "**DVD**"	➡ "**VID1**"
元にもどす			
VID1キーをVID1にもどす	"9 9 2"	➡ "**VID1**"	➡ "**VID1**"

VID2キーにビデオデッキを登録する

VID2キーをVID1にする	"9 9 2"	➡ "**VID1**"	➡ "**VID2**"
元にもどす			
VID2キーをVID2にもどす	"9 9 2"	➡ "**VID2**"	➡ "**VID2**"

他の機器を操作する

リモコンのインプットセレクターキーに登録した機器は、本機のリモコンで操作することができます。

1 インプットセレクターキーを押して操作したい機器を選ぶ。

キーを押すと本機リモコンで登録した機器の操作ができるようになります。本機の入力も切り換わります。

本機の入力は切り換えず、リモコンのみ登録した機器を操作できるようにするには、インプットセレクターキーを3秒以上押し続けます。

- リモコンをレシーバー操作モードにするには、**RCV Mode**キーを押します。

2 機器の電源をオンにする。

- リモコンに登録したDVDプレーヤー、CDプレーヤー、MDレコーダー、ビデオデッキは、本機リモコンの**SRC Power**キーを押すと電源をオンにできます。
- リモコンに登録したテレビは、本機リモコンの**TV Power**キーを押すと電源をオンにできます。

3 操作するキーを押す。

- 各機器で使用できるキーは、48～49ページをご覧ください。

リモコンに登録、記録した内容を全て消去するには

セットアップコードによる機器の登録、学習機能により記憶させた内容全て消去して、リモコンをお買い上げいただいたときの初期状態に戻すことができます。

1 リモコンのLEDが2回点滅するまでRemorte Setupキーを押し続け、Remorte Setupキーをはなす。

- LEDが2回点滅後10秒以内に次の操作をしてください。

2 数字キーで"9 8 1"を入力する。

- LEDが4回点滅し、リモコンに登録、記録した内容が全て消去されます。

セットアップコード表

セットアップコード表にあるメーカー製品であっても形式、年式により使用できないものがあります。他社のメーカーのセットアップコードを入力した場合、機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものがあります。この場合は、お使いの機器専用のリモコンをご使用ください。セットアップコードでの設定のしかたは"**お手持ちの機器のセットアップコードを登録する**"をよくお読みください。 →41

ケーブルテレビチューナー

メーカー	セットアップコード
ABC	0003, 0008, 0014
Americast	0899
Bell & Howell	0014
Bell South	0899
Clearmaster	0883
ClearMax	0883
Coolmax	0883
Director	0476
General Instrument	0476, 0810, 0276, 0003
GoldStar	0144
Hamlin	0009, 0273
Jerrold	0476, 0810, 0276, 0003, 0014
Memorex	0000
Motorola	0476, 0810, 0276, 1254, 1376
Pace	0237
Panasonic	0000, 0107
Paragon	0000
Philips	0305, 0317
Pioneer	0877, 1877, 0144, 0533
Pulsar	0000
Quasar	0000
RadioShack	0883
Regal	0279, 0273
Runco	0000
Samsung	0144
Scientific Atlanta	0877, 1877, 0477, 0008
Sony	1006
Starcom	0003
Supercable	0276
Supermax	0883
Torx	0003
Toshiba	0000
Tristar	0883
V2	0883
Viewmaster	0883
Vision	0883
Vortex View	0883
Zenith	0000, 0525, 0899

CDプレーヤー

メーカー	セットアップコード
Kenwood	0681, 0826, 0626, 0028, 0037, 0339, 1490, 0338, 0523, 0859, 0190, 0340, 0677, 0858, 1338
Marantz	0626
Optimus	0037
Philips	0626
Sharp	0037
Yamaha	0036

MDレコーダー

メーカー	セットアップコード
Kenwood	0681, 0826, 1339

ビデオアクセサリー

メーカー	セットアップコード
Macro Image Technology	1383
MyHD	1383
Panasonic	1120
Pioneer	1010
Princeton	0113, 0295
Samsung	1490
Sensory Science	1126
Sharp	1010
Viewsonic	1329

衛星（BS/CS）チューナー

メーカー	セットアップコード
AlphaStar	0772
Chaparral	0216
Crossdigital	1109
DirecTV	0392, 0566, 0639, 1639, 1142, 0247, 0749, 1749, 0724, 0819, 1856, 1076, 1109, 0099
Dish Network System	1005, 0775
Dishpro	1005, 0775
Echostar	1005, 0775
Expressvu	0775
GE	0566
General Instrument	0869
GOI	0775
Hitachi	0819
HTS	0775
Hughes Network Systems	1142, 0749, 1749
JVC (Victor)	0775
Magnavox	0724, 0722
Memorex	0724
Mitsubishi	0749
Motorola	0869
Next Level	0869
Panasonic	0247, 0701
Paysat	0724
Philips	1142, 0749, 1749, 0724, 1076, 0722, 0099
Proscan	0392, 0566
RadioShack	0869
RCA	0392, 0566, 0855, 0143
Samsung	1276, 1109
SKY	0856
Sony	0639, 1639
Star Choice	0869
Tivo	1142
Toshiba	0749, 1749, 0790, 1285
Uniden	0724, 0722
Zenith	0856, 1856

テレビ

メーカー	セットアップコード
Admiral	0093, 0463
Aiko	0092
Aiwa	1914
Akai	0812, 0702, 0030, 0672
Albatron	0843
America Action	0180
Ampro	0751
Anam	0180
AOC	0030
Apex Digital	0748, 0765, 1943
Audiovox	0451, 0180, 0092
Bell & Howell	0154
Bradford	0180
Broksonic	0236, 0463, 1935, 1929, 1938
Candle	0030
Carnivale	0030
Carver	0054
Celebrity	0000
Celera	0765
Changhong	0765
Citizen	0060, 0030, 1928, 0092
Clarion	0180
Contec	0180
Craig	0180
Crosley	0054
Crown	0180
Curtis Mathes	0047, 0054, 0154, 0451, 0093, 0060, 0702, 0030, 0145, 0166, 1919, 1347
CXC	0180
Daewoo	0451, 1661, 0672, 1928, 0092
Denon	0145
Dumont	0017
Durabrand	0180, 0178
Dwin	0720
Electroband	0000
Elektra	0017, 1661
Emerson	0154, 0236, 0463, 0180, 0178, 0171, 1944, 1929, 1928
Envision	0030
Epson	0833
Fisher	0154
Fujitsu	0853, 0809, 0683
Funai	0180, 0171
Futuretech	0180
Gateway	1756, 1755
GE	0047, 0051, 0451, 0178, 1347, 1922, 1919, 1917
Gibralter	0017, 0030
GoldStar	0030, 0178, 1926
Grunpy	0180
Hallmark	0178
Harman/Kardon	0054
Harvard	0180
Havermy	0093
Hello Kitty	0451
Himitsu	0180
Hisense	0748
Hitachi	1145, 0145
Hyundai	0849
Infinity	0054

テレビ(つづき)

メーカー	セットアップコード
Inteq	0017
JBL	0054
JCB	0000
JVC (Victor)	0053
KEC	0180
Kenwood	0030
KLH	0765
KTV	0180, 0030
LG	0856
LXI	0047, 0054, 0154, 0156, 0178
Magnasonic	1928, 1913
Magnavox	0054, 0030, 1454, 0706, 1254, 1931, 1913
Marantz	0054, 0030
Matsushita	0250, 0650
Megatron	0178, 0145
Memorex	0154, 0463, 0150, 0178, 1926
MGA	0150, 0030, 0178
Midland	0047, 0017, 0051
Mitsubishi	0093, 0150, 1250, 0178, 1917
Monivision	0843
Motorola	0093
MTC	0060, 0030
Multitech	0180
NAD	0156, 0178, 0866
NEC	0030, 1704, 0497
Nikko	0030, 0178, 0092
Norcent	0748, 0824
NTC	0092
Onwa	0180
Optimus	0154, 0250, 0166, 1913, 0650
Optonica	0093
Orion	0236, 0463, 1929
Panasonic	0250, 0051, 0650, 1946, 1941, 1919
Penney	0047, 0156, 0051, 0060, 0030, 0178, 1926, 1919, 1347
Philco	0054, 0030
Philips	0054, 1454, 0690
Pilot	0030
Pioneer	0166, 0866, 0679
Portland	0092
Prism	0051
Proscan	0047, 1922
Proton	0178
Pulsar	0017
Quasar	0250, 0051, 1919, 0650
RadioShack	0047, 0154, 0180, 0030, 0178
RCA	0047, 1919, 0090, 1247, 1917, 1948, 1047, 1547, 1922, 0679, 1347
Realistic	0154, 0180, 0030, 0178
Runco	0017, 0030, 0497, 0603
Sampo	0030, 1755
Samsung	0060, 0812, 0702, 0030, 0178, 1060, 0766, 1903
Sansui	0463, 1929
Sanyo	0154, 0799
Scotch	0178
Scott	0236, 0180, 0178
Sears	0047, 0054, 0154, 0156, 0178, 0171, 1926

テレビ（つづき）

メーカー	セットアップコード
Sharp	0093, 0688, 1917, 0491, 0851, 0689
Sheng Chia	0093
Sony	0000, 0834, 1925
Soundesign	0180, 0178
Squareview	0171
SSS	0180
Starlite	0180
Supreme	0000
SVA	0748
Sylvania	0054, 0030, 0171, 1944, 1931
Symphonic	0180, 0171, 1913
Tandy	0093
Technics	0250, 0051
Techwood	0051
Teknika	0054, 0180, 0150, 0060, 0092
Telefunken	0702
TMK	0178
TNCi	0017
Toshiba	0154, 0156, 0060, 1935, 0650, 1704, 1945, 1356, 1936, 0832
TVS	0463
Vector Research	0030
Victor	0053
Vidikron	0054
Vidtech	0178
Viewsonic	1755
Wards	0054, 0030, 0178, 0866
Waycon	0156
White Westinghouse	0463
Yamaha	0030, 0769, 0833
Zenith	0017, 0463, 0178, 0092, 1929

プロジェクター

メーカー	セットアップコード
Ampro	0751
Dwin	0720
Epson	0833
NEC	0497
RCA	0047
Runco	0603, 0497
Sanyo	0799
Sharp	0688, 0491, 0851, 0689
Sony	0834
Toshiba	0832
Yamaha	0833
Zenith	0017

ビデオ内蔵型テレビ

メーカー	セットアップコード
Aiwa	1914
America Action	0180
Audiovox	0180
Broksonic	1929
Citizen	1928
Curtis Mathes	1919
Daewoo	1928
Emerson	0236, 1929, 1928
GE	1922, 1919, 1917

ビデオ内蔵型テレビ（つづき）

メーカー	セットアップコード
GoldStar	1926
Magnasonic	1928, 1913
Magnavox	1913, 1931
Memorex	1926
Mitsubishi	1917
Optimus	1913
Orion	1929
Panasonic	1919
Penney	1926, 1919
Quasar	1919
RCA	1922, 1919, 1917
Sansui	1929
Sears	1926
Sony	1925
Sylvania	1931
Symphonic	1913
Toshiba	1936
Zenith	1929

DVDプレーヤー内蔵型テレビ

メーカー	セットアップコード
Apex Digital	1943
Broksonic	1935
Panasonic	1941
RCA	1948
Samsung	1903
Sylvania	0171
Toshiba	1935

ビデオ

メーカー	セットアップコード
Admiral	0048
Aiwa	0037
American High	0035
Asha	0240
Audiovox	0037
Beaumark	0240
Bell & Howell	0104
Broksonic	0184, 0121
Calix	0037
Canon	0035
Carver	0081
Citizen	0037
Craig	0037, 0047, 0240
Curtis Mathes	0060, 0035, 0162
Cybernex	0240
Daewoo	0045
Denon	0042
Durabrand	0039
Electrohome	0037
Electrophonic	0037
Emerex	0032
Emerson	0037, 0184, 0121, 0043
Fisher	0047, 0104
Fuji	0035, 0033
GE	0060, 0035, 0240
GoldStar	0037
Harman/Kardon	0081
HI-Q	0047

ビデオ(つづき)

メーカー	セットアップコード
Hitachi	0042
Hughes Network Systems	0042
JVC (Victor)	0067
KEC	0037
Kenwood	0067
Kodak	0035, 0037
LXI	0037
Magnavox	0035, 0039, 0081
Magnin	0240
Marantz	0035, 0081
Marta	0037
Matsushita	0035, 0162
MEI	0035
Memorex	0035, 0162, 0037, 0048, 0039, 0047, 0240, 0104
MGA	0240, 0043
MGN Technology	0240
Minolta	0042
Mitsubishi	0067, 0043
Motorola	0035, 0048
MTC	0240
NEC	0104, 0067
Nikko	0037
Noblex	0240
Olympus	0035
Optimus	0162, 0037, 0048, 0104
Orion	0184
Panasonic	0035, 0162, 0616
Penney	0035, 0037, 0240, 0042
Pentax	0042
Philco	0035
Philips	0035, 0081, 0618
Pilot	0037
Pioneer	0067
Polk Audio	0081
Profitronic	0240
Proscan	0060
Pulsar	0039
Quasar	0035, 0162
Radix	0037
Randex	0037
RCA	0060, 0240, 0042, 0880
Realistic	0035, 0037, 0048, 0047, 0104
ReplayTV	0616
Runco	0039
Samsung	0240, 0045
Sanky	0048, 0039
Sansui	0067
Sanyo	0047, 0240, 0104
Scott	0184, 0045, 0121, 0043
Sears	0035, 0037, 0047, 0042, 0104
Sharp	0048
Shogun	0240
Sonic Blue	0616
Sony	0035, 0032, 0033, 0636
STS	0042
Sylvania	0035, 0081, 0043
Technics	0035, 0162
Teknika	0035, 0037
Tivo	1503, 0636, 0618

ビデオ(つづき)

メーカー	セットアップコード
TMK	0240
Toshiba	0045, 0043, 1503
Totevision	0037, 0240
Unitech	0240
Vector	0045
Video Concepts	0045
Videomagic	0037
Videosonic	0240
Wards	0060, 0035, 0048, 0047, 0081, 0240, 0042
XR-1000	0035
Zenith	0039, 0033

DVDプレーヤー

メーカー	セットアップコード
Allegro	0869
Apex Digital	0672, 0717, 0796, 0794, 1061
Blaupunkt	0717
Blue Parade	0571
CineVision	0876, 0869
CyberHome	0816
Daewoo	0784, 0833
Denon	0490
DVD2000	0521
Emerson	0591, 0675
Enterprise	0591
Fisher	0670
Funai	0675
GE	0522, 0815, 0717
Go Video	0715, 0783
Greenhill	0717
Hitachi	0573, 0664
Hiteker	0672
Initial	0717
InterAct	0697
JVC (Victor)	0558, 0623, 0867
Kenwood	0490, 0534
KLH	0717, 1020
Koss	0651
Lasonic	0798
Mad Catz	1108, 1002
Magnavox	0503, 0675
Marantz	0539
Microsoft	0522
Mintek	0717
Mitsubishi	1521, 0521
Nesa	0717
Norcent	1003
Onkyo	0503
Oritron	0651
Panasonic	0490, 1762
Pelican Accessories	0731
Philips	0503, 0539, 0646
Pioneer	0525, 0571
Polk Audio	0539
Proscan	0522
Qwestar	0651
RCA	0522, 0571, 0717, 0822
Rio	0869
Rotel	0623

DVDプレーヤー(つづき)

メーカー	セットアップコード
Saitek	0731
Samsung	0490, 0573, 1075, 0820
Sanyo	0670, 0873
Sharp	0630
Shinsonic	0533
Sonic Blue	0869
Sony	0533, 0864, 0772, 1033
Sylvania	0675
Symphonic	0675
Technics	0490
Theta Digital	0571
Thrustmaster	0498
Toshiba	0503
Tredex	0799
Urban Concepts	0503
Xbox	0522
Yamaha	0490, 0539, 0545
Zenith	0503, 0591, 0869

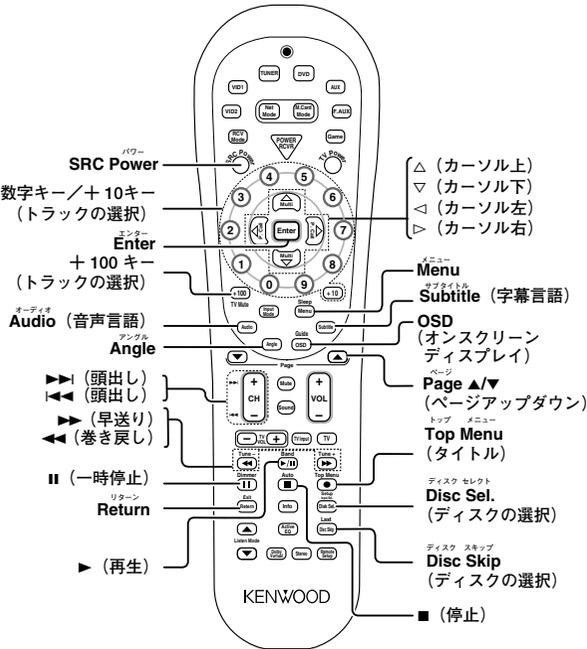
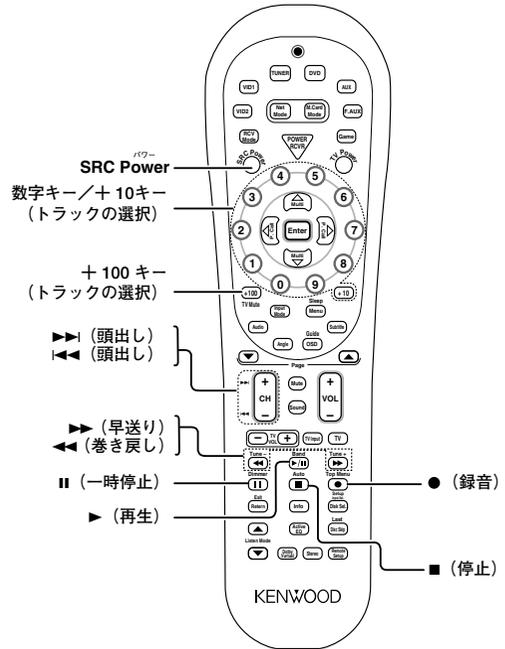
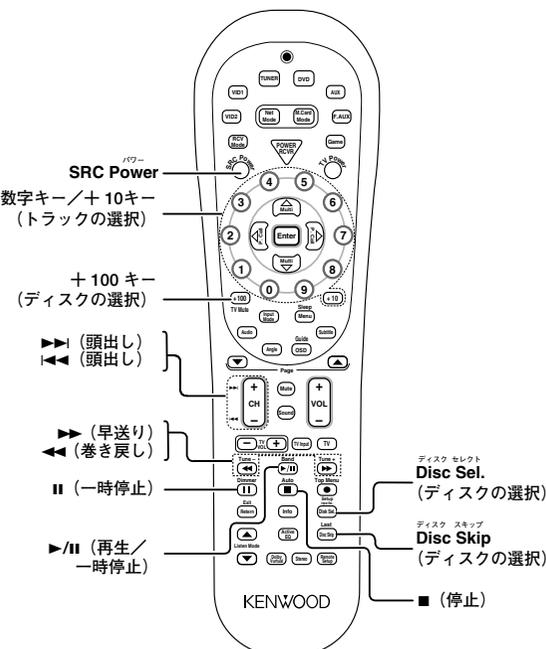
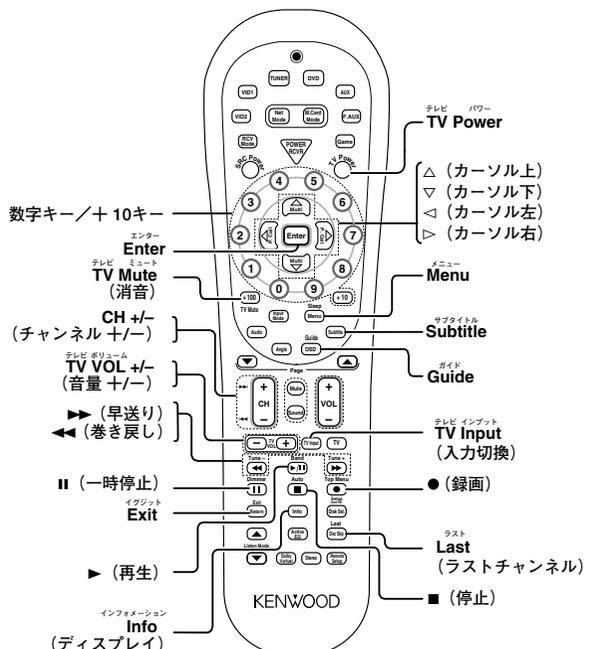
DVD プレーヤー、MD レコーダー、CD プレーヤー、テレビ操作

各機器の、リモコンで操作できる内容については、下記をご覧ください。

❶ 入力するソースを選ぶ。
❷ 操作したい機器のリモコンコードを記憶させたキーを押す。以下の章を参考にして選択した機器の操作を行う。

- 続けて複数のキーを操作するときは、1 つのキーをしっかり押したあと1秒以上待ってから次のキーを押してください。
- 数字キーは、各機器に付属のリモコンの数字キーと同じ働きをします。

本キーによりケンウッド製およびセットアップコードにより事前に入力された他社製装置の基本操作を行えます。 ➡ 43

DVDプレーヤー操作キー

MD レコーダー操作キー（ケンウッド製）

CD プレーヤー操作キー

テレビ操作キー（含むビデオ内蔵型テレビ）

ビデオ、衛星（BS/CS）チューナー、ケーブルチューナー操作

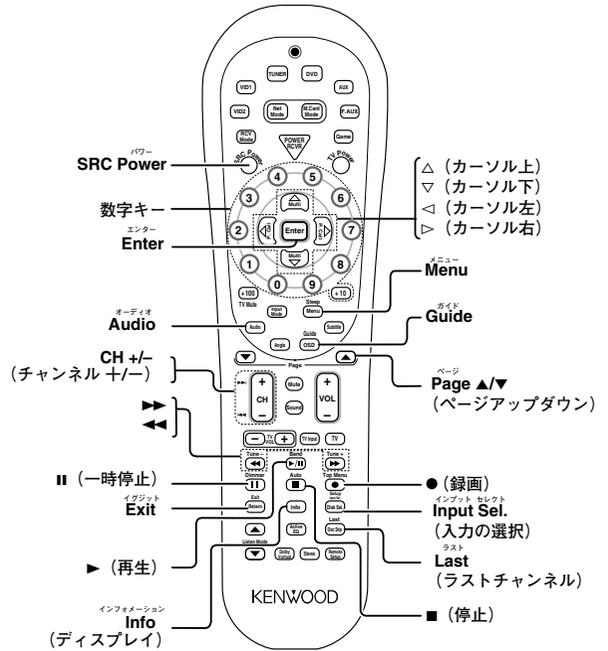
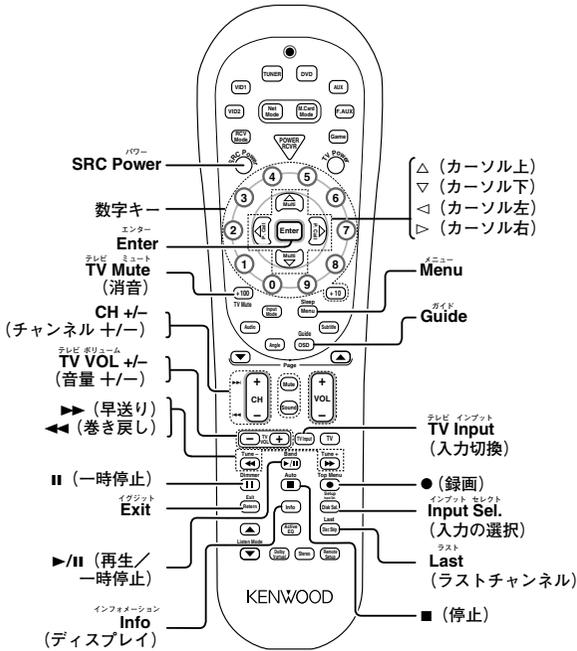
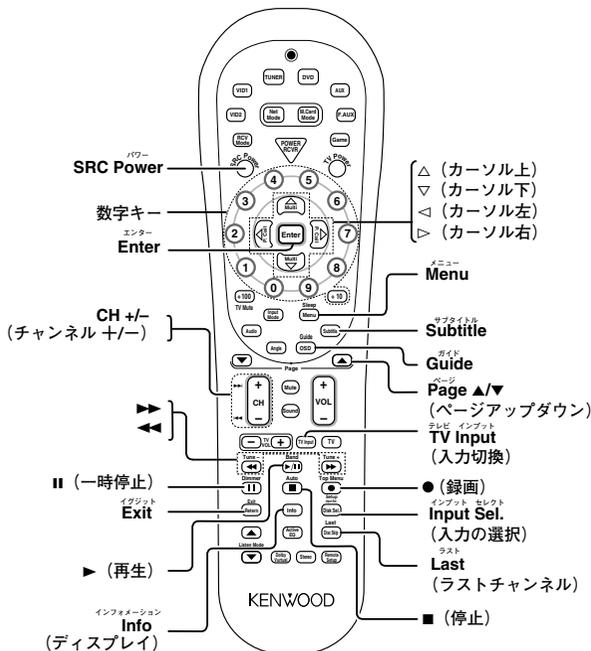
各機器の、リモコンで操作できる内容については、下記をご覧ください。

❶ 入力するソースを選ぶ。
❷ 操作したい機器のリモコンコードを記憶させたキーを押す。以下の章を参考にして選択した機器の操作を行う。

- 続けて複数のキーを操作するときは、1 つのキーをしっかり押したあと1秒以上待ってから次のキーを押してください。
- 数字キーは、各機器に付属のリモコンの数字キーと同じ働きをします。

本キーによりケンウッド製およびセットアップコードにより事前に入力された他社製装置の基本操作を行えます。 ➡ 43

ビデオ操作キー

衛星（BS/CS）チューナー操作キー

ケーブルチューナー操作キー

故障かな？と思ったら

マイコンをリセットするには

電源がオンのときの接続コードの抜き差しや、あるいは外部からの要因により、マイコンが誤動作（操作できない、ディスプレイの誤表示など）することがあります。この場合、次の手順をお試しください。マイコンがリセットされ、通常の状態に戻ります。

電源プラグをコンセントから抜き、ON/STANDBY ⏻ キーを押しながら、差し込み直す。

- リセットにより、各種の記憶内容は消去され、工場出荷時の状態となります。ご了承ください。

アンプ部

症　状	対　策
音が出ない。	● "**スピーカーの接続**"をみて正しく接続し直す。 →16 ● ミュートがオンになっているときは、ミュートを解除する。 →29 ● ヘッドホンが差し込まれているときは抜く →28 ● **Input Mode** キーを押して、オートディテクトを選ぶ。 →12 ● デジタル音声入力端子の割り付けが正しいか確認する。 →26
スピーカーから音が出ない、または音が小さい。	● "**スピーカーの接続**"をみて正しく接続し直す。 →16 ● "**スピーカーの設定をする**"をみて、接続したすべてのスピーカーを正しく設定し直す。 →22 ● サラウンドモードにする。 ● テストトーンを使って、スピーカーのレベルを調節する。 →24
スタンバイインジケーターが点滅し、音が出ない。	● スピーカーコードがショートし保護回路が作動している。電源プラグをコンセントから抜き電源を切ってからショートを取り除き、再度電源を入れる。 ● 大出力再生のため、保護回路が作動している。電源を入れ直し、出力ボリュームを下げて使用する。 ● 極端な温度上昇のため、保護回路が作動している。電源を入れ直し、出力ボリュームを下げて使用する。 ● 指定されたインピーダンスより小さいスピーカーを使用しているため、保護回路が作動している。指定されたインピーダンスのスピーカーを使用する。
別のセレクターの音や映像が出る。	● デジタル音声入力端子とD端子の割り付けが正しいか確認する。 →26
映像が出ない	● 再生しようとしている機器と本機、テレビと本機を、同じ種類のコード（D端子コード、S VIDEO コード、黄色のRCAビデオコード）で正しく接続する。 →14
録音ができない。	● "**ビデオ機器、オーディオ機器の接続**"、"**デジタル機器の接続**"をみて正しく接続し直す。 →14 →15 ● デジタルソースの場合、"**REC モードで録音する**"をみて正しく設定する。 →30
ビデオ入力からの録画ができない。	● コピープロテクトがかかっているソースは録画できません。 ● S VIDEO 入力端子、D端子入力からは録画できません。黄色のRCAビデオ端子に接続する。 →14
デジタルのソースの再生を始めると最初の音が切れる。	● プレーヤーの種類によって、いろいろな原因があります。デジタルソースを再生中にインプットモードをデジタルマニュアルにして、最初から再生する。 →12
ドルビーデジタル、DTSソフトがマルチチャンネル音声で再生できない。	● プレーヤーのデジタル出力の設定が正しいか確認する。
BSデジタル放送のAACマルチチャンネル音声放送がマルチチャンネル音声で再生できない。	● BSデジタルチューナーのデジタル出力の設定をAAC出力にする。
BSデジタル放送の音声切り換えができない。	● 放送によっては音声は本機では切り換えることができません。BSデジタルチューナー側で音声を切り換える。
電源を入れるとインプットセレクターが"GAME"になる。	● ゲームモード機能がはたらいています。 →25

チューナー部

症　状	対　策
放送局が受信できない。	● アンテナを正しく接続する。 →19 ● 放送バンドを合わせる。 ● 受信したい放送局の周波数に合わせる。 →31
雑音が入る。	● 外部アンテナを道路から離して設置する。 ● 電気器具の電源を切ってみる。 ● テレビやパソコンから離す。
プリセットしたあと、数字キーを押しても受信できない。	● 受信できる周波数の放送局をプリセットする。

リモコン操作

症　状	対　策
他の機器の操作ができない。	● セットアップコードを正しく登録する。 →41
リモコンで操作できない。	● インプットセレクターキーを押して、適切な操作モードを選ぶ。 ● 新しい電池と交換する。 ● リモコンを本体のリモコン受光部に向けて操作する。 →19 ● "**接続のしかた**" をみて正しく接続し直す。 ● 操作をしようとしている装置の操作モードになっていない。 インプットセレクターキーを押す、または **SRC Power** キーを押す。 →42

メモリーバックアップ

本機に通電されていない状態にしてから、約1日ほど経過すると、以下の内容が初期化されますのでご注意ください。

●電源のON／OFFの状態 ＝ OFF
●ボリュームの値 ＝ −66 dB
●DIMMERレベル ＝ OFF（一番明るい状態）
●受信バンド ＝ FM
●周波数 ＝ 76.00 MHz
●受信方法 ＝ AUTO

定格

オーディオ部

ステレオ モード

- 定格出力（20 Hz ～ 20 kHz、0.7%、6 Ω）..... 100 W + 100 W
- 実用最大出力 ..... 130 W + 130 W（JEITA、6 Ω）

サラウンド モード（1ch動作時）

- 定格出力
  - FRONT ..... 100 W + 100 W（1 kHz、0.5%、6 Ω）
  - CENTER ..... 100 W（1 kHz、0.5%、6 Ω）
  - SURROUND ..... 100 W + 100 W（1 kHz、0.5%、6 Ω）
  - SURROUND BACK／SUBWOOFER ..... 100 W（1 kHz、0.5%、6 Ω）
- 実用最大出力
  - FRONT ..... 130 W + 130 W（1 kHz、10%、6 Ω）
  - CENTER ..... 130 W（1 kHz、10%、6 Ω）
  - SURROUND ..... 130 W + 130 W（1 kHz、10%、6 Ω）
  - SURROUND BACK／SUBWOOFER ..... 130 W（1 kHz、10%、6 Ω）

全高調波歪率 ..... 0.09%（1 kHz、50 W、6 Ω）

周波数特性

- DIGITAL IN（DVD、VIDEO 1、VIDEO 2、AUX、GAME）
  ..... （10 Hz ～ 44 kHz、サンプリング周波数 96kHz）+ 0 dB ～ −3 dB

SN比

- DIGITAL IN（DVD、VIDEO 1、VIDEO 2、AUX、GAME）..... 96 dB

入力端子（感度/インピーダンス）

- LINE（DVD、VIDEO 1、VIDEO 2、AUX、FRONT AUX、GAME）
  ..... 400 mV / 47 kΩ

出力端子（レベル/インピーダンス）

- REC OUT ..... 400 mV / 1 kΩ
- PRE OUT（SURROUND BACK）..... 1 V / 1 kΩ
- PRE OUT（SUBWOOFER）..... 1 V / 1 kΩ

トーン コントロール特性

- BASS ..... ±10 dB（100 Hz）
- TREBLE ..... ±10 dB（10 kHz）

デジタル部

対応サンプリング周波数

..... 32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz

入力端子（レベル／インピーダンス／波長）

- オプチカル（VIDEO 1、AUX、GAME）
  ..... （−15 dBm～−24 dBm）660 nm ±30 nm
- コアキシャル（DVD、VIDEO 2）..... 0.5 Vp-p／75 Ω

ビデオ部

入力端子（感度／インピーダンス）

- コンポジット（DVD、VIDEO 1、VIDEO 2、FRONT AUX、GAME）
  ..... 1 Vp-p / 75 Ω
- S VIDEO（DVD、VIDEO 2）
  - Y-信号 ..... 1 Vp-p / 75 Ω
  - C-信号 ..... 0.286 Vp-p / 75 Ω
- D端子（D1、D2、D3、D4）
  - Y-信号 ..... 1 Vp-p / 75 Ω
  - CR/CB-信号 ..... ±0.32 Vp-p / 75 Ω

出力端子（レベル／インピーダンス）

- コンポジット（VIDEO 1、MONITOR OUT）..... 1 Vp-p / 75 Ω
- S VIDEO（MONITOR OUT）
  - Y-信号 ..... 1 Vp-p / 75 Ω
  - C-信号 ..... 0.286 Vp-p / 75 Ω
- D端子（D4 VIDEO OUTPUT）
  - Y-信号 ..... 1 Vp-p / 75 Ω
  - CR/CB-信号 ..... ±0.32 Vp-p / 75 Ω

FM チューナー部

受信周波数範囲 ..... 76 MHz ～ 90 MHz
アンテナインピーダンス ..... 75 Ω不平衡
実用感度（モノラル）..... 1.6 μV (75 Ω) 15.2 dBf
（75 kHz DEV. SINAD 30 dB）

高調波ひずみ率（1 kHz）

- モノラル ..... 0.5 %
  （71.2 dBf 入力時）
- ステレオ ..... 0.7 %
  （71.2 dBf 入力時）

SN比（1 kHz）

- モノラル ..... 74 dB
  （71.2 dBf 入力時）
- ステレオ ..... 67 dB
  （71.2 dBf 入力時）

実効選択度（±400 kHz）..... 50 dB
ステレオセパレーション（1 kHz）..... 36 dB
周波数特性（30 Hz ～ 15 kHz）..... + 0.5 dB ～ −3.0 dB

AM チューナー部

受信周波数範囲 ..... 531 kHz ～ 1,602 kHz
実用感度（30%mod.、S/N 20 dB）..... 18 μV (600 μV/m)
SN比（30%mod.、400 Hz）

- モノラル ..... 48 dB

電源部・その他

定格消費電力（電気用品安全法に基づく表示）..... 110 W
待機時消費電力 ..... 0.3 W以下
最大外形寸法 ..... 幅 : 440 mm
高さ : 79 mm
奥行 : 364 mm
重量（正味）..... 4.4 kg

ご注意

1. これらの定格およびデザインは、技術開発に伴い予告なく変更することがあります。
2. 極端に寒い（水が凍るような）場所では十分な性能が発揮できないことがあります。

保証とアフターサービス（よくお読みください）

保証書（別途添付）
製品には保証書が（別途）添付されております。保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめの上、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保証期間
保証期間は、お買い上げの日より1年間です。
電池や、一部の消耗部品の交換、ならびに落下、水没など、不適切なご使用による故障の場合は、保証期間内でも有料となります。詳しくは保証書をご覧ください。

修理に関するご相談ならびにご不明な点は
修理に関するご相談ならびにご不明な点は、お買い上げの販売店または最寄りのケンウッドサービス窓口にお問い合わせください。
（お問い合わせ先は、「ケンウッドサービス網」をご覧ください。）

補修用性能部品の保有期間
当社は、このステレオの補修用性能部品を、製造打ち切り後8年保有しております。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

シリアル番号について
システム商品の各機器にシリアル番号が付けられておりますが、保証書にはシステム管理用として、別のシリアル番号が印刷されています。
付属の保証書で、お買い上げのシステム機器（基本システム）すべての保証修理が受けられます。

修理を依頼される時は
「故障かな？と思ったら」に従って調べていただき、なお異常がある時は、製品の使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店または最寄りのケンウッドサービス窓口にお問い合わせください。

この製品の故障・誤動作・不具合などによって発生した次に掲げる損害などの付随的損害の補償につきましては、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- お客様または第三者がテープ・ディスクなどへ記録された内容の損害
- 録音・再生などお客様または第三者が製品利用の機会を逸したことによる損害

保証期間中は
保証期間中は保証書の規定に従って、お買い上げの販売店またはケンウッドのサービス窓口が修理をさせていただきます。
修理に際しましては保証書をご提示ください。

出張修理／持込修理
「出張修理」、「持込修理」のどちらが適用されるかは機種によって異なります。保証書の記載をご確認ください。出張修理を依頼される時は、次のことをお知らせください。

- 製品名
- 製造番号（Serial No.）
- お買い上げ年月日
- 故障の症状（できるだけ具体的に）
- ご住所（ご近所の目印等も併せてお知らせください）
- お名前、電話番号、訪問ご希望日

保証期間が過ぎている時は
保証期間が過ぎている時は、修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。

修理料金の仕組み
（有料修理の場合は、次の料金をいただきます）
- 技術料：故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等の設備費や、一般管理費などが含まれています。
- 部品代：修理に使用した部品の代金です。その他、修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
- 出張料：製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。
- 送　料：郵便、宅配便などの料金です。保証期間内に無償修理などを行うにあたって、お客様に負担していただく場合があります。

お買上げ店名

電話（　　　　）　　　　-

ケンウッドサービス網

2004年4月現在

製品に対するお問合せ、アフターサービスについてのお申し込みは、お買い上げの販売店または最寄りのケンウッドサービス窓口にお申しつけください。

北海道			
札幌サービスセンター	〠007-0834	札幌市東区北34条東14-1-23	☎ (011) 743-7740
東北			
仙台サービスセンター	〠984-0042	仙台市若林区大和町5-32-12(サンライズ大和)	☎ (022) 284-1171
盛岡サービスステーション	〠020-0124	盛岡市厨川4-5-11	☎ (019) 646-2311
関東・甲信越			
埼玉サービスセンター	〠331-0812	さいたま市北区宮原1-311-1（加茂宮ビル1F）	☎ (048) 664-3611
千葉サービスセンター	〠277-0081	柏市富里1-2-1	☎ (04) 7163-1441
東京サービスセンター	〠169-0073	新宿区百人町2-16-15(MYビル1F)	☎ (03) 3363-1650
神奈川サービスセンター	〠226-8525	横浜市緑区白山1-16-2	☎ (045) 939-6242
新潟サービスステーション	〠950-0923	新潟市姥ケ山1-5-37	☎ (025) 287-7736
静岡サービスステーション	〠420-0816	静岡市沓谷5-61-1	☎ (054) 262-8700
中部			
名古屋サービスセンター	〠462-0861	名古屋市北区辻本通1-11	☎ (052) 917-2550
松本サービスステーション	〠390-0832	松本市南松本2-7-30(昭和ビル2F)	☎ (0263) 26-7331
金沢サービスステーション	〠920-0036	金沢市元菊町21-87	☎ (076) 265-5045
近畿・四国			
大阪サービスセンター	〠532-0034	大阪市淀川区野中北2-1-22	☎ (06) 6394-8075
高松サービスステーション	〠760-0068	高松市松島町3-1	☎ (087) 835-2413
中国			
広島サービスセンター	〠731-0137	広島市安佐南区山本1-8-23	☎ (082) 832-2210
九州			
福岡サービスセンター	〠815-0035	福岡市南区向野2-8-18	☎ (092) 551-9755
鹿児島サービスステーション	〠890-0063	鹿児島市鴨池2-15-10(パレス鴨池1F)	☎ (099) 251-6347
沖縄サービスステーション	〠901-2132	浦添市伊祖1-5-2	☎ (098) 874-9010
カスタマーサポートセンター	〠226-8525	横浜市緑区白山1-16-2	☎ (045) 933-5133 FAX (045) 933-5553
カスタマーサポートセンター大阪	〠532-0034	大阪市淀川区野中北2-1-22	☎ (06) 6394-8085 FAX (06) 6394-8308

- ケンウッドサービス窓口　営業時間のご案内
  月曜日〜金曜日（土曜、日曜、祭日及び当社休日を除く）午前10時から午後6時まで
- カスタマーサポートセンター　営業時間のご案内
  月曜日〜金曜日（土曜、日曜、祭日及び当社休日を除く）午前9時から午後6時まで
  （各サービス窓口の名称、所在地、電話番号は変更になることがありますのでご了承ください）

KENWOOD

株式会社 ケンウッド

〒192-8525　東京都八王子市石川町 2967-3

商品および商品の取り扱いに関するお問い合わせは、カスタマーサポートセンターをご利用ください。

カスタマーサポートセンター　電話 (045) 933-5133　FAX (045) 933-5553　〒226-8525　横浜市緑区白山 1-16-2

カスタマーサポートセンター大阪　電話 (06) 6394-8085　FAX (06) 6394-8308　〒532-0034　大阪市淀川区野中北 2-1-22

アフターサービスについては、お買い上げの販売店か、または、「ケンウッド全国サービス網」をご参照のうえ、最寄りのサービス窓口にご相談ください。